

小規模企業景気動向調査 [2025年11月期調査]

～横ばい推移の中で回復の兆し、支援への期待が高まる小規模企業景況～

<産業全体>

11月期の産業全体の景況は、全DIがわずかに上昇した。前年ベースでは若干低下したが、直近1年間で極端な変化は少なく安定的に推移しており、一部で需要が戻りつつあるとの声があった。一方で、依然として物価上昇や人件費増加、最低賃金引上げにより事業継続に厳しさを感じている事業者も多く、国や都道府県による物価高対策に期待する声が散見された。

	DI	10月	11月	前月比	前年 同月比
売上額		5.0	6.7	1.7	▲ 0.8
採算	▲	18.8	▲ 17.4	1.4	▲ 2.0
資金繰り	▲	15.0	▲ 14.4	0.6	▲ 1.5
業況	▲	14.5	▲ 13.7	0.8	▲ 2.8

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)>全DIが上昇も価格転嫁が課題、採算悪化に苦しみ製造業

製造業は売上額・資金繰り・業況DIが小幅に上昇、採算DIはわずかに上昇した。食料品、機械・金属関連は全DIが上昇したが、繊維関連は業況DIを除き低下した。機械・金属関連は、採算DIが直近1年間で最高値を記録したが、原材料費や燃料費等の高騰に苦しむ声は止まない。最低賃金の引き上げも経営悪化に拍車をかける中、価格転嫁、取引適正化の徹底が課題であり、2026年1月の取適法施行による取引環境の改善を期待したい。

	DI	10月	11月	前月比	前年 同月比
売上額		6.7	8.8	2.1	▲ 1.6
採算	▲	20.2	▲ 19.3	0.9	▲ 4.1
資金繰り	▲	17.1	▲ 14.8	2.3	▲ 3.0
業況	▲	17.3	▲ 13.6	3.7	▲ 2.3

<建設業>年末需要から業況回復、人手確保や安定受注に注力する建設業

建設業は、全DIが小幅に上昇した。年末需要により受注が増加している等の声もあり、前月の悪化から一転して改善したが、人手不足による失注や資材等の高騰による利益減少に苦しむ声がより顕著になっている。地域によっては公共工事の受注が停滞ないし減少しており、新築工事の需要も少ないとの声が散見される中、市外・県外での受注が可能な事業者と、対応が困難な事業者との間で、業況の二極化が進んでいる様子がうかがえる。

	DI	10月	11月	前月比	前年 同月比
売上額		9.3	11.3	2.0	▲ 2.1
採算	▲	17.2	▲ 14.5	2.7	▲ 0.2
資金繰り	▲	16.5	▲ 12.6	3.9	0.6
業況	▲	11.6	▲ 9.6	2.0	▲ 0.8

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>回復の兆しが見えるも、コスト高等不安定さが残る小売業

小売業は、採算DIが小幅に上昇、売上額・業況DIはわずかに上昇し、資金繰りDIはわずかに低下した。耐久消費財関連は、6カ月ぶりに売上額DIが0ポイントを下回った。暖房機器の買い替え等、一定の需要はあったが、業界全体の押し上げには至らなかった。食料品・衣料品関連では、売上は増加したが、仕入価格も上昇しており、顧客の節約志向による買い控えが続く中、資金繰りに苦慮しているとの声が散見された。

	DI	10月	11月	前月比	前年 同月比
売上額		1.0	2.8	1.8	4.0
採算	▲	22.5	▲ 19.7	2.8	1.4
資金繰り	▲	16.3	▲ 17.4	▲ 1.1	0.2
業況	▲	19.8	▲ 17.9	1.9	0.2

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>行楽需要も、価格転嫁と利用減で慎重な見通し続くサービス業

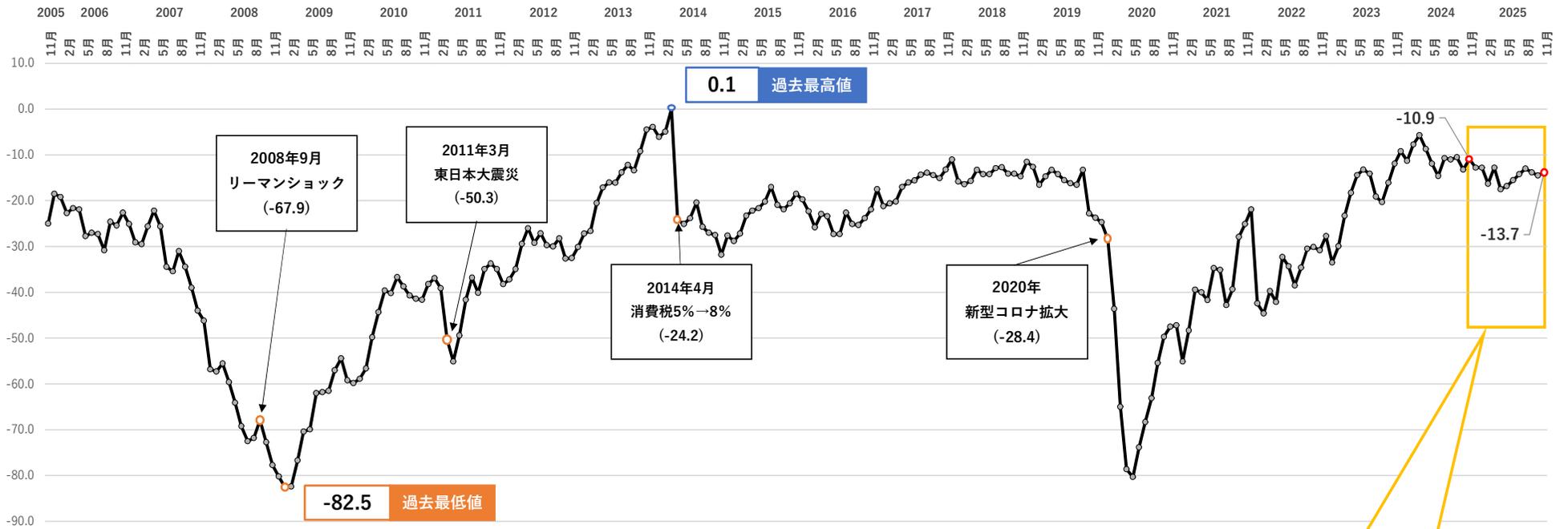
他業種が比較的好調に推移する中、サービス業は、売上額DIがわずかに上昇、採算DIがわずかに低下し、資金繰り・業況DIは小幅に低下した。クリーニング及び理・美容関連では、価格転嫁は進みつつあるが、その分利用頻度が低下しているとの声もあり、ほぼすべてのDIが低下した。旅館業では、秋の行楽需要により売上・採算で若干の改善が見られたが、一部でインバウンド需要の減少を懸念する声も見られた。

	DI	10月	11月	前月比	前年 同月比
売上額		3.0	3.9	0.9	▲ 3.5
採算	▲	15.1	▲ 16.3	▲ 1.2	▲ 5.3
資金繰り	▲	10.4	▲ 12.8	▲ 2.4	▲ 4.1
業況	▲	9.3	▲ 13.6	▲ 4.3	▲ 7.9

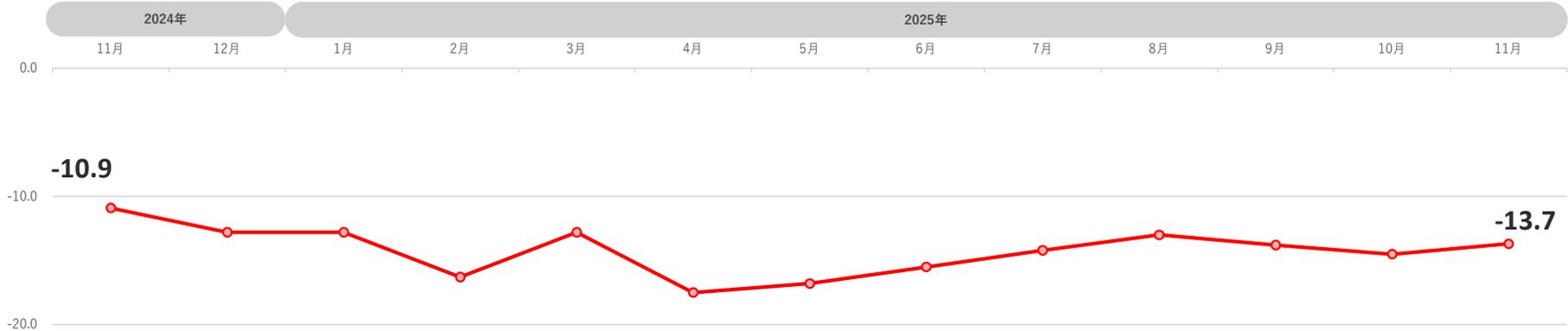
調査概要

- ・調査対象: 全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数:249/回答率 82.2%)
- ・調査時点: 2025年11月末
- ・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式
- ※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去20年のトレンド～

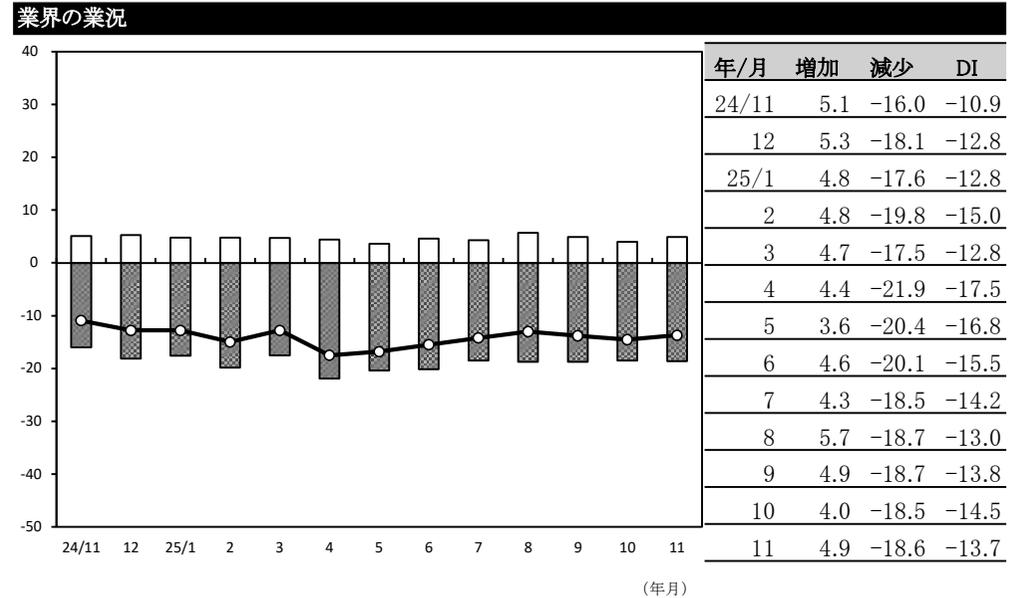
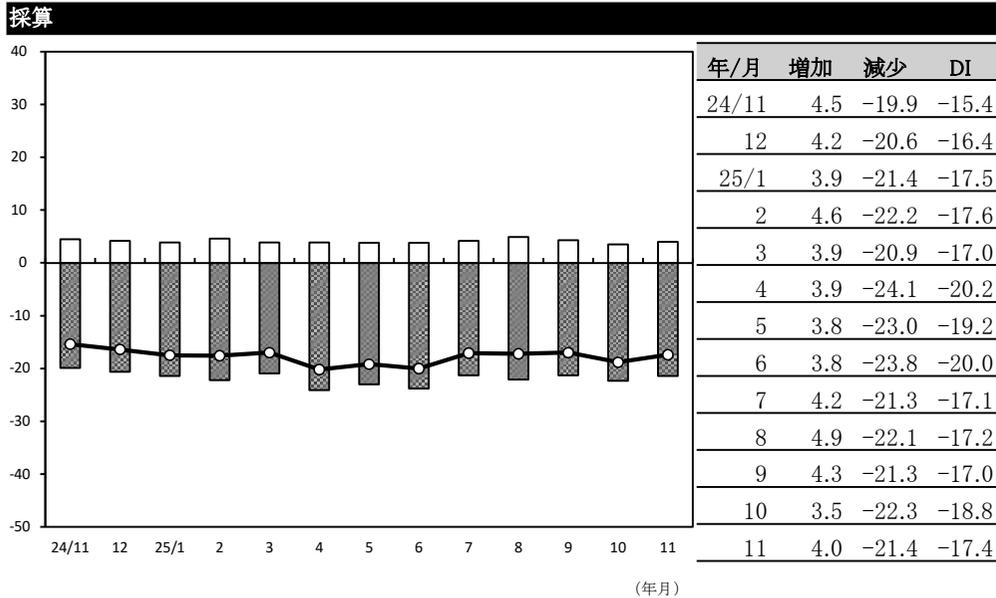
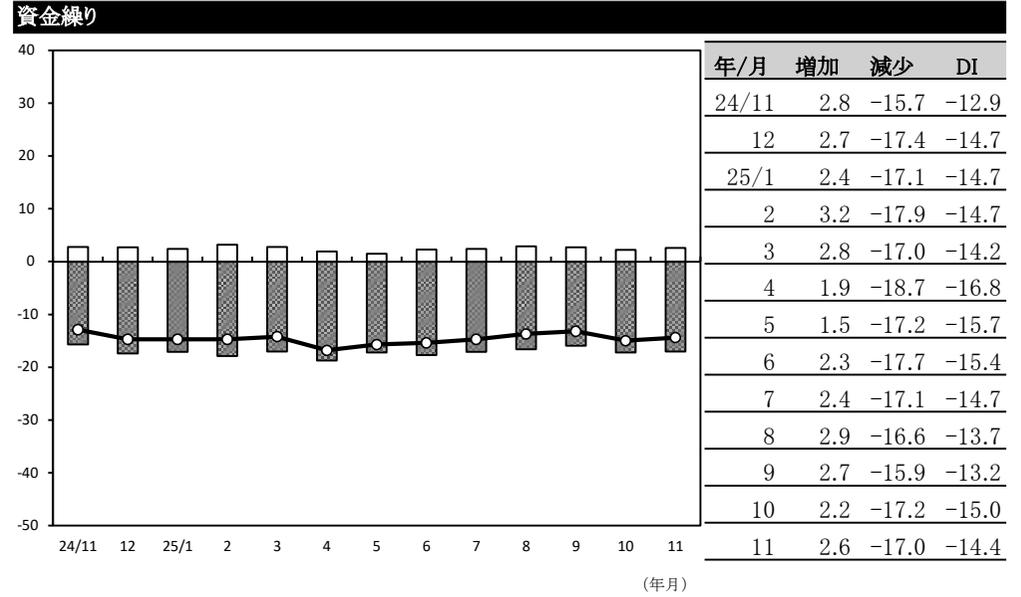
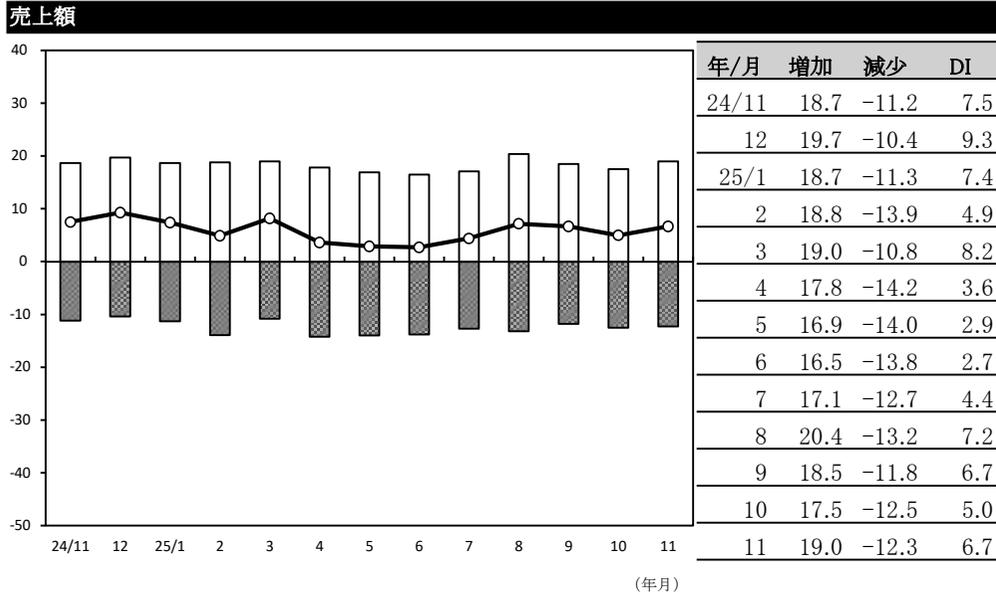


産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～

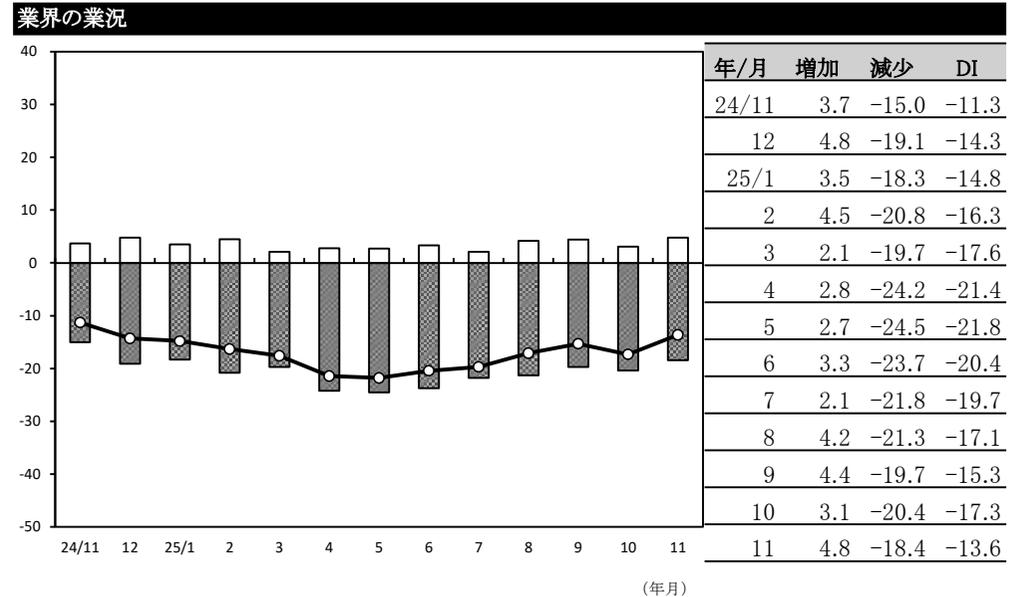
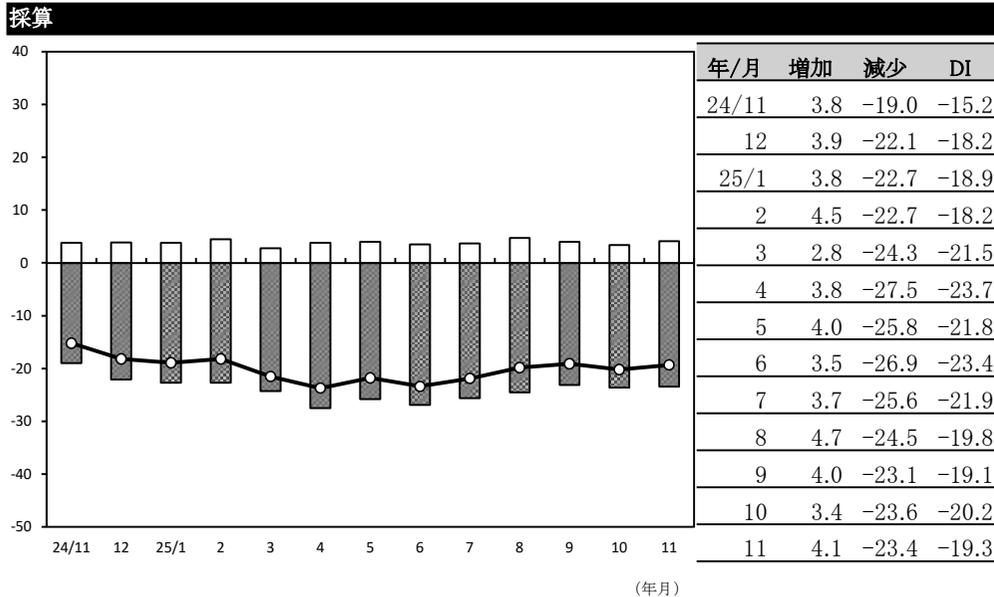
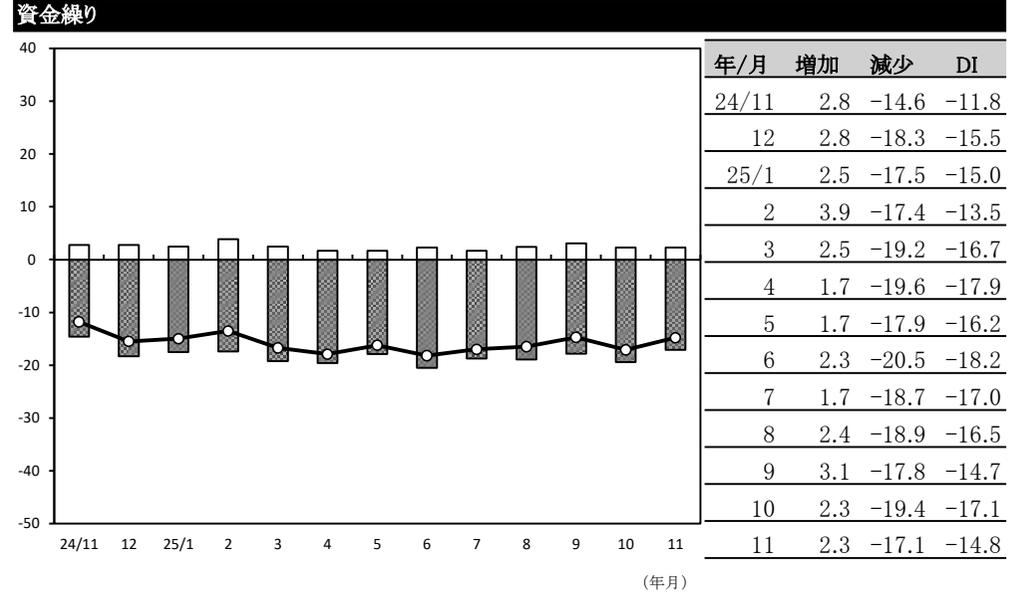
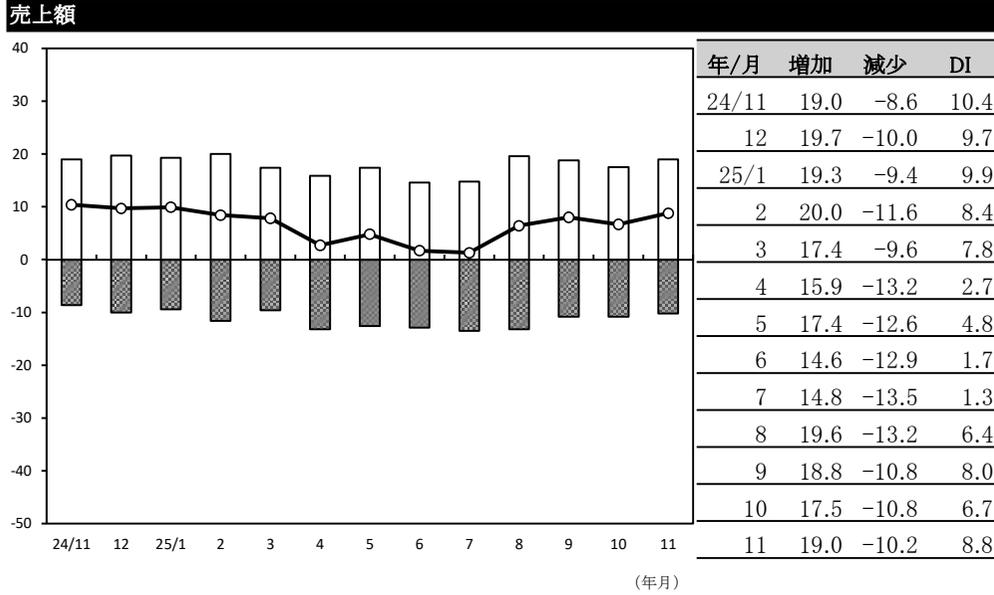


小規模企業景気動向調査(2025年11月期)

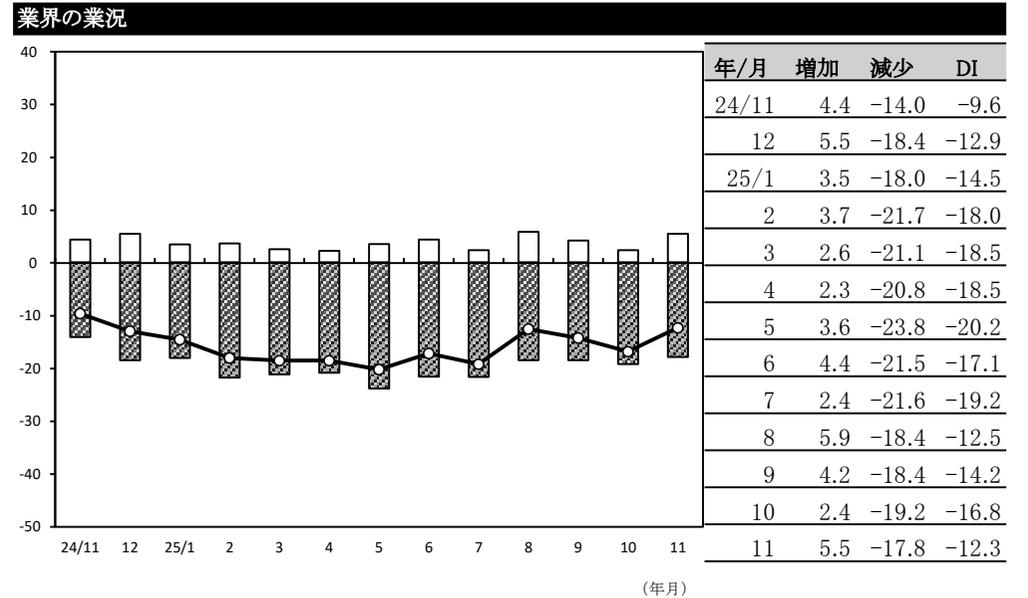
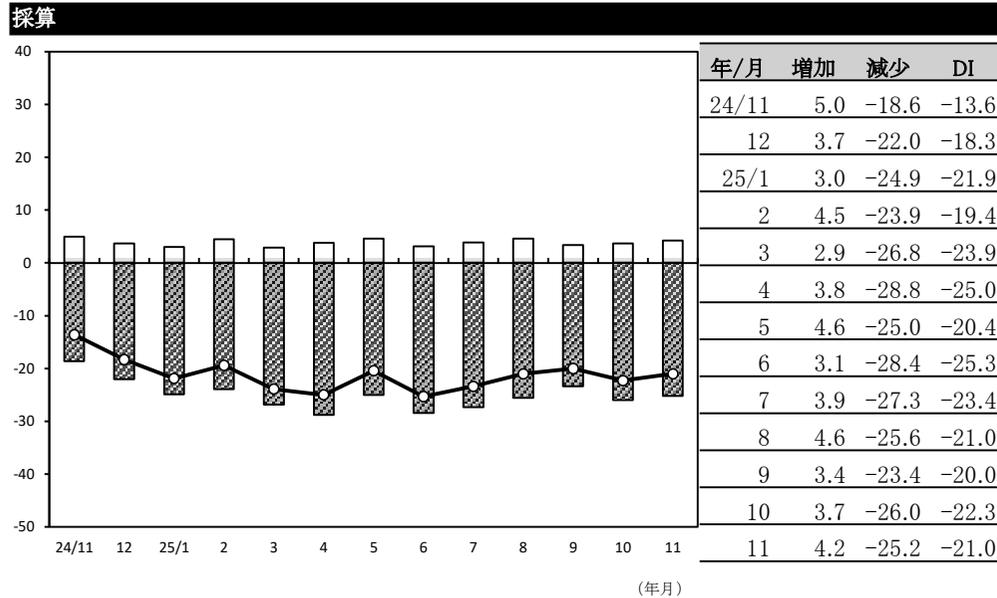
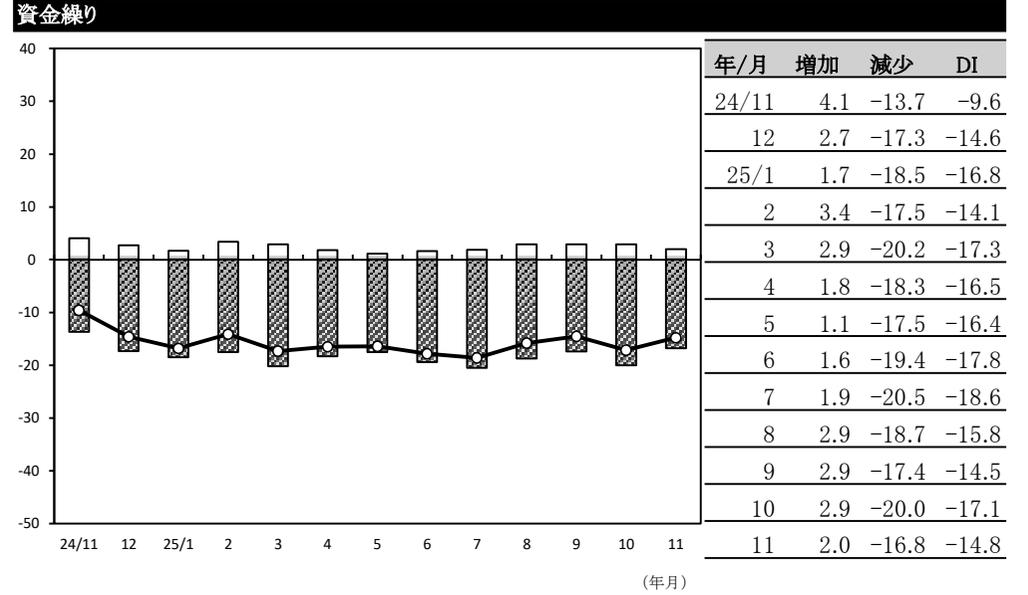
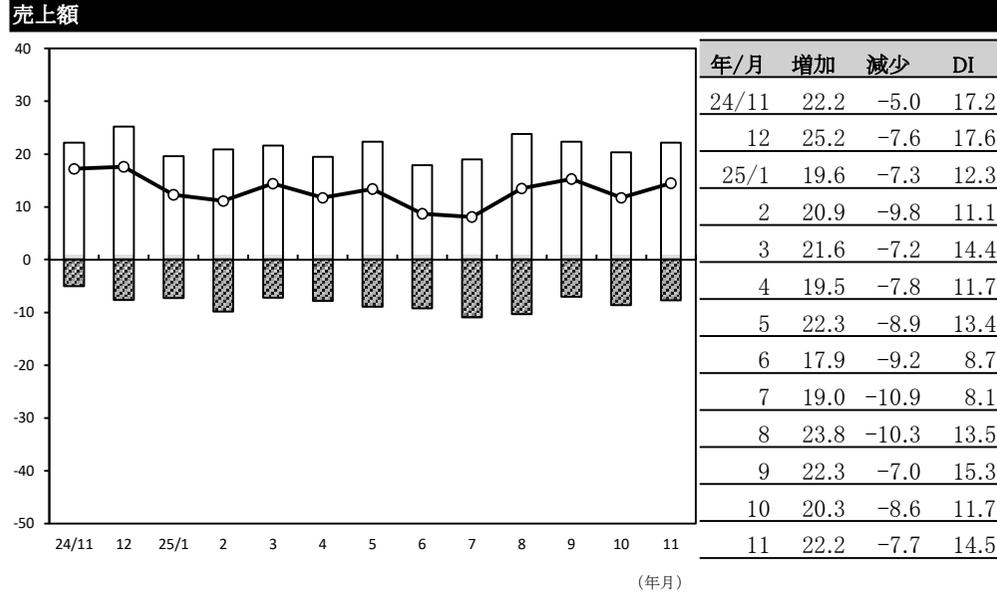
産業全体(前年同月比)



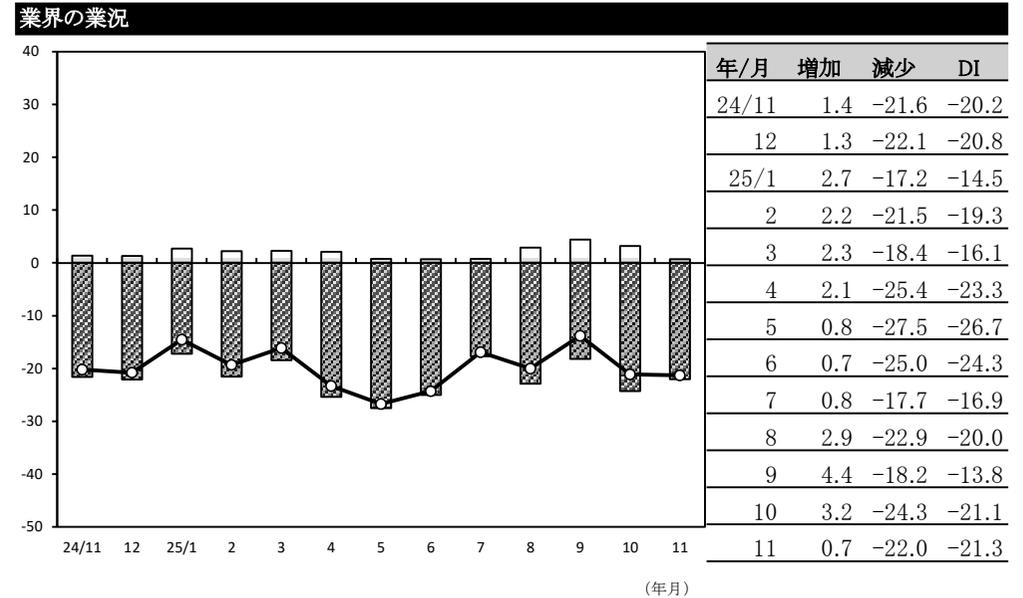
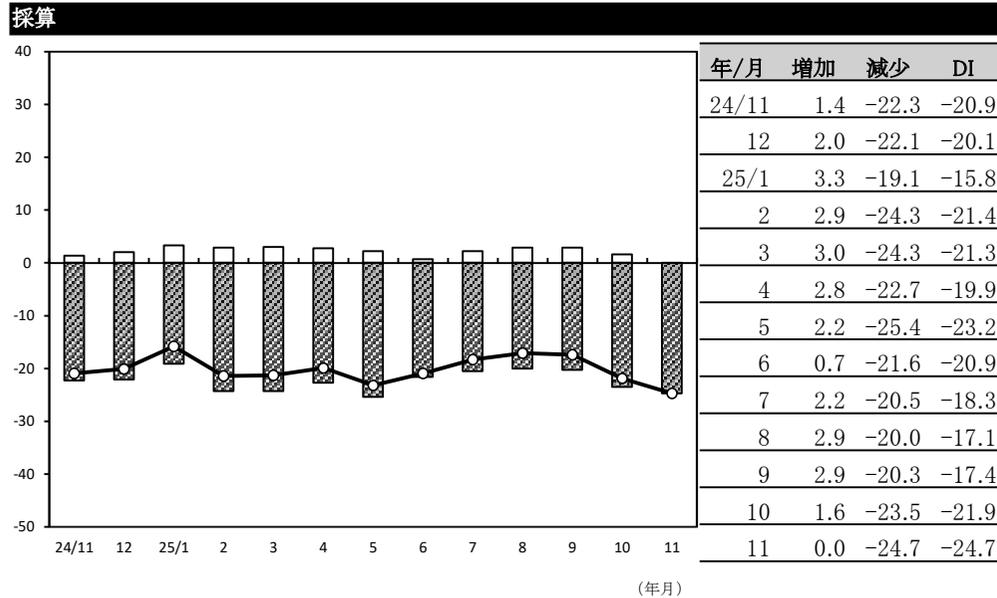
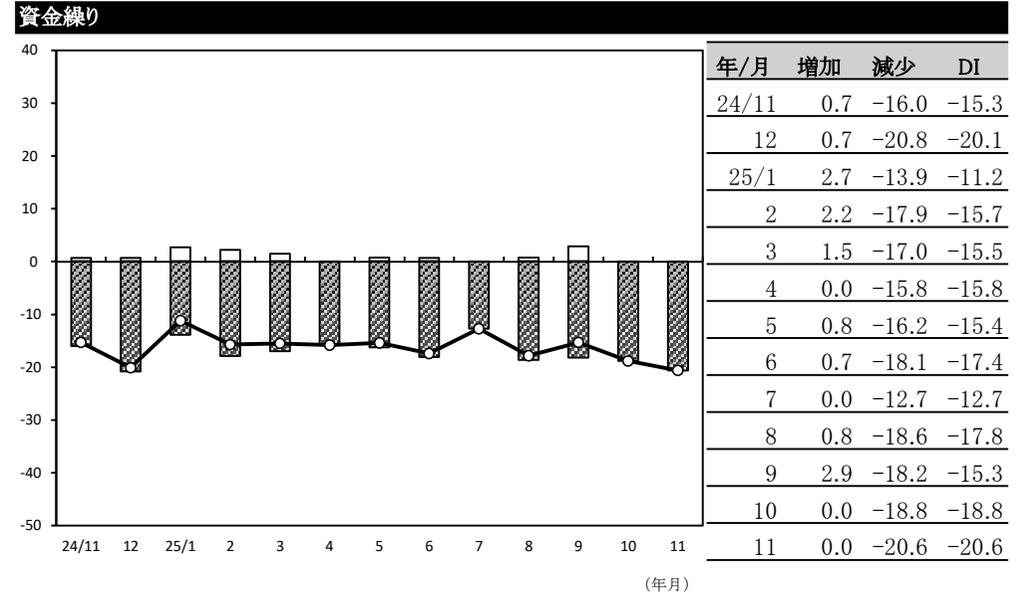
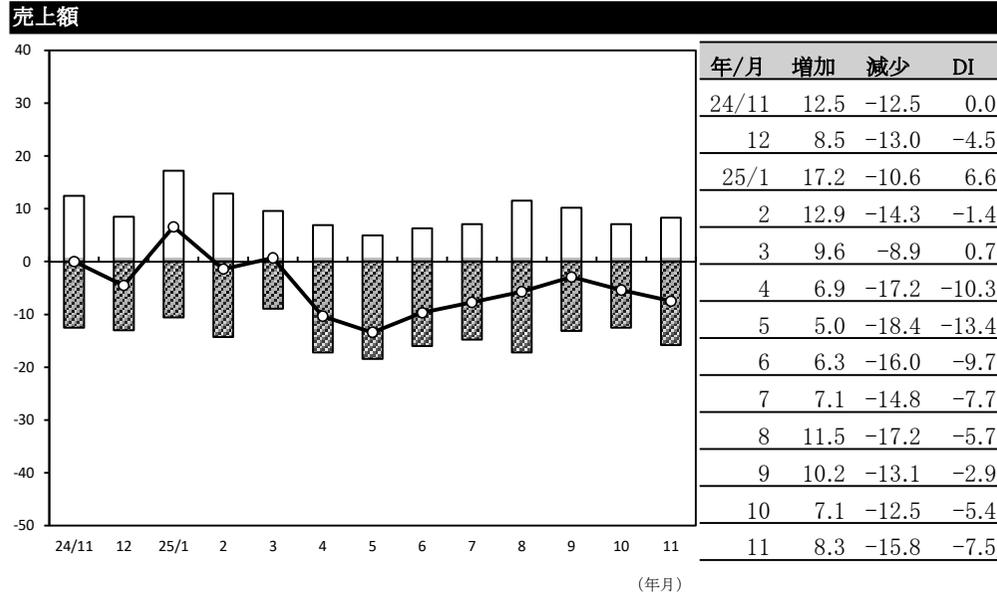
製造業(前年同月比)



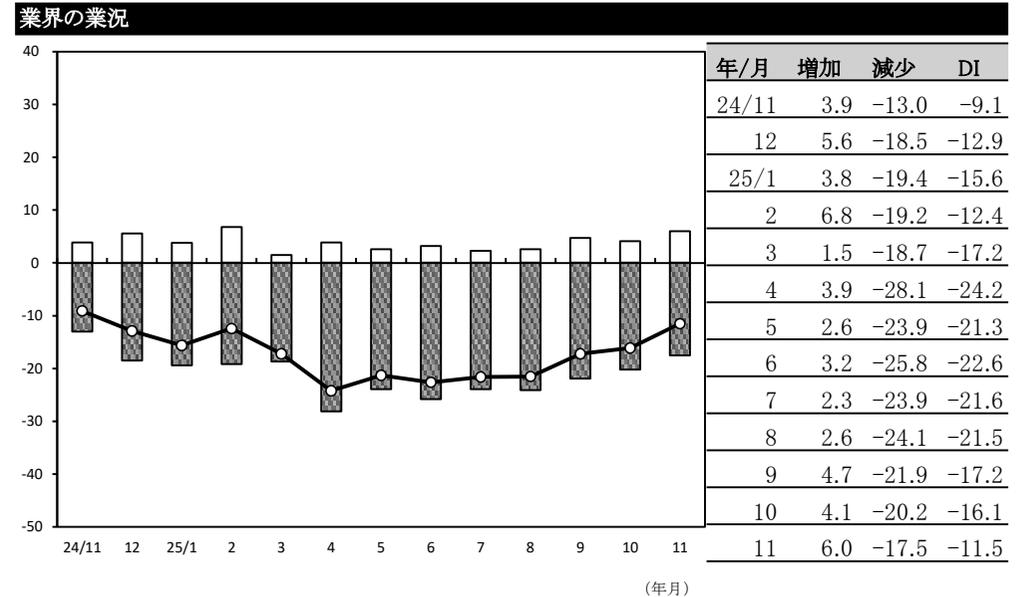
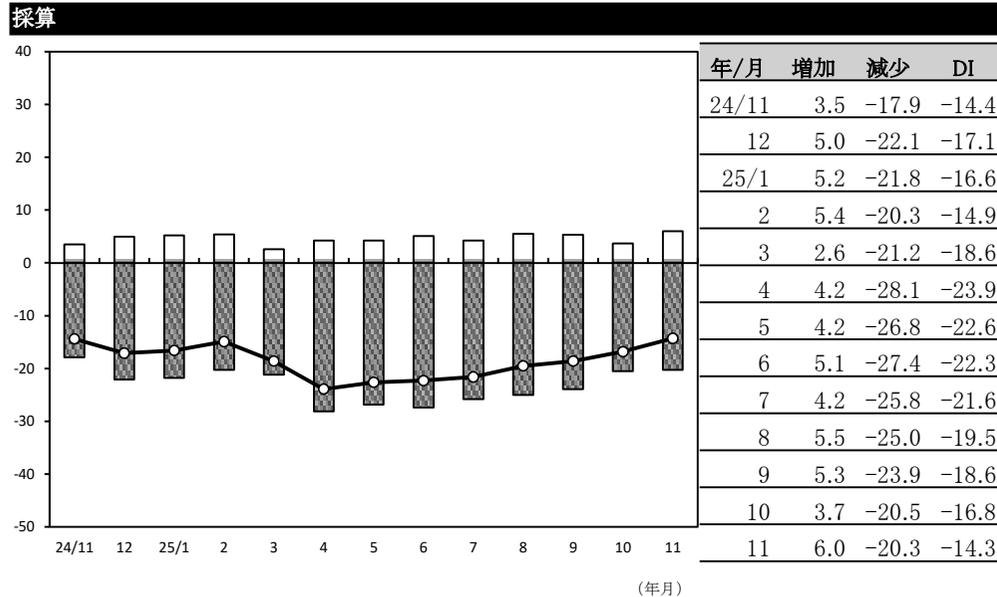
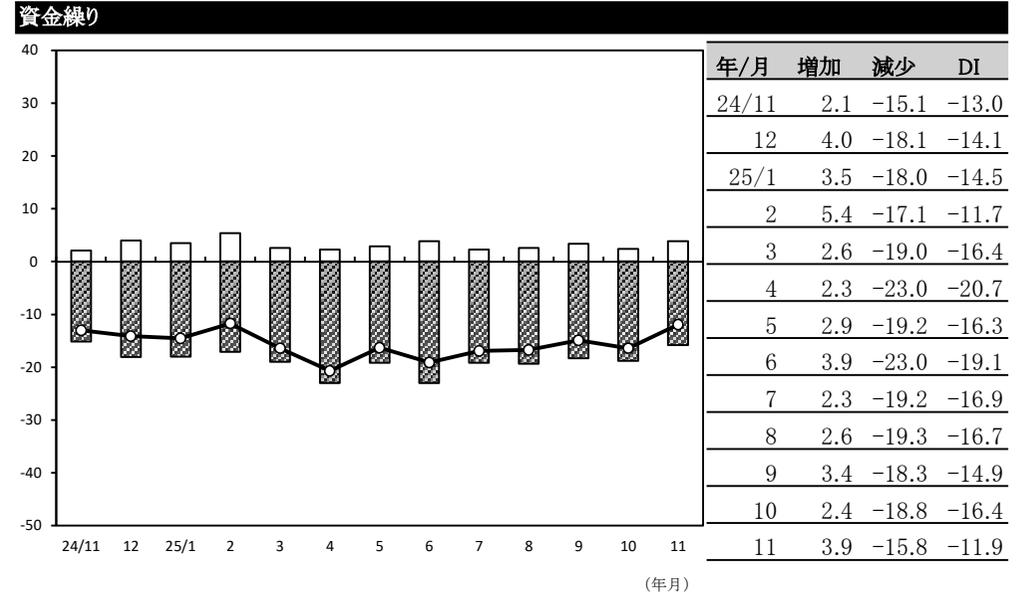
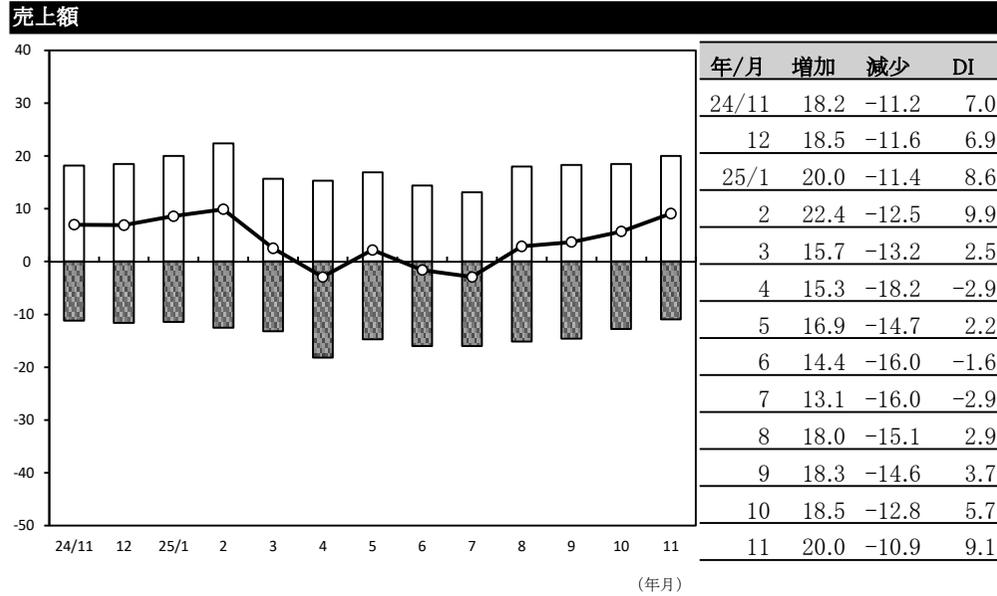
製造業【食料品】（前年同月比）



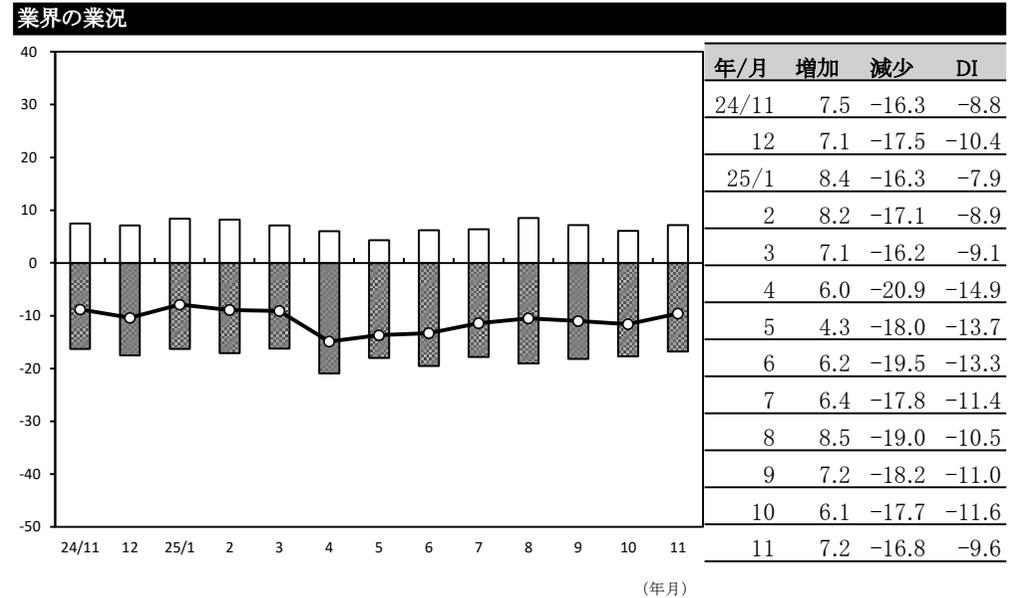
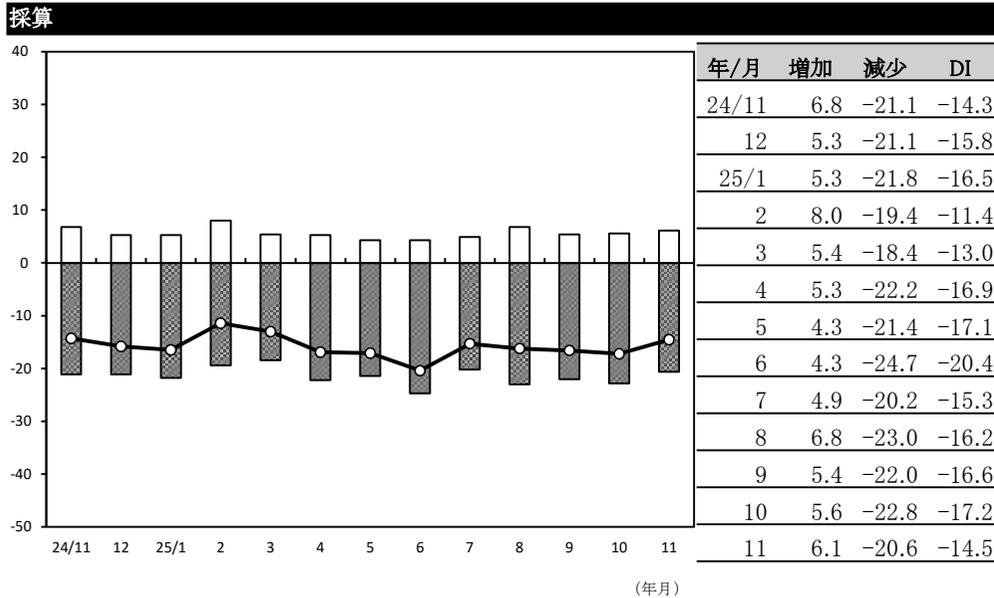
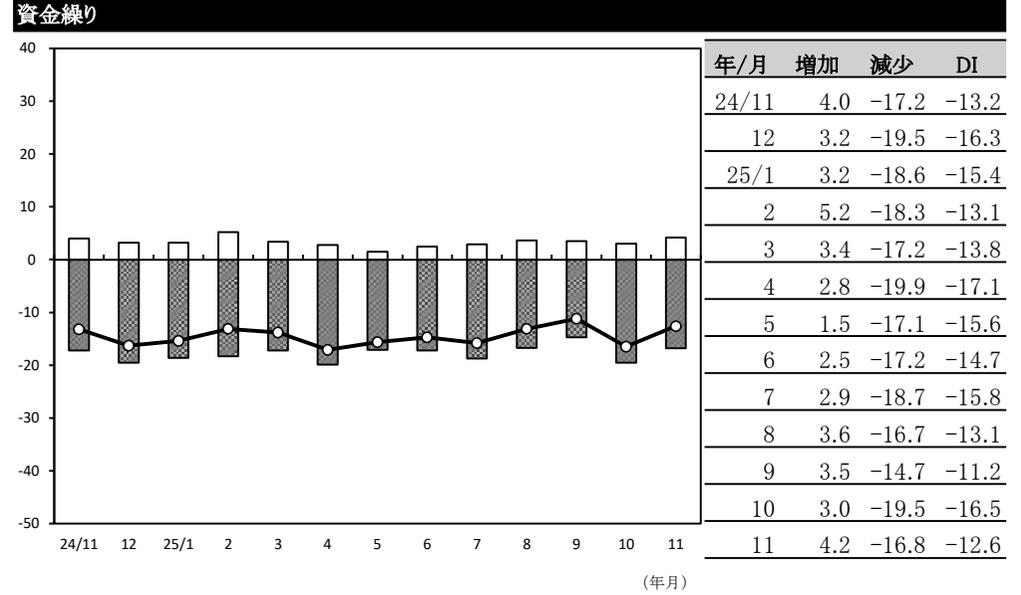
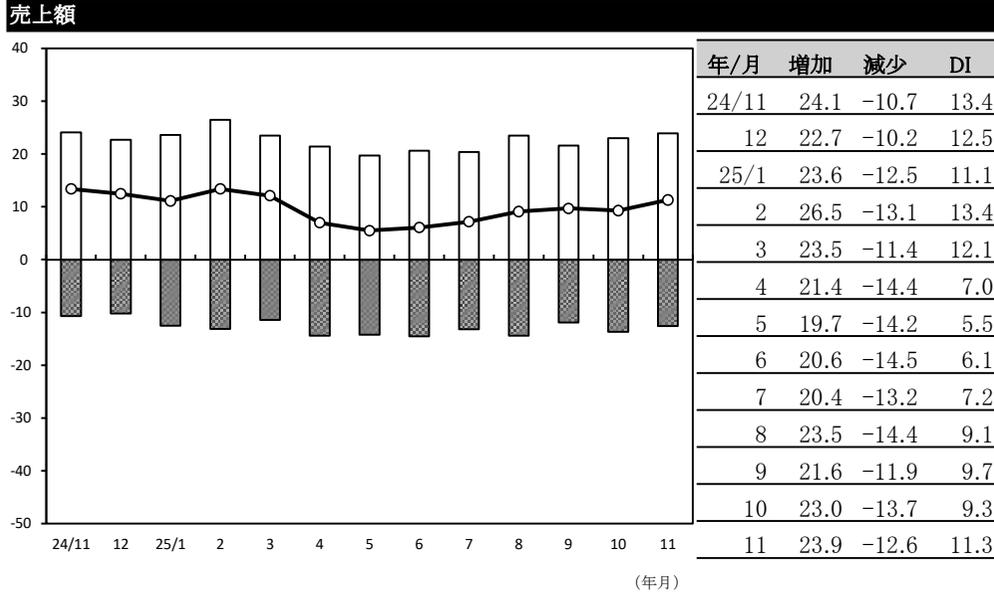
製造業【繊維】（前年同月比）



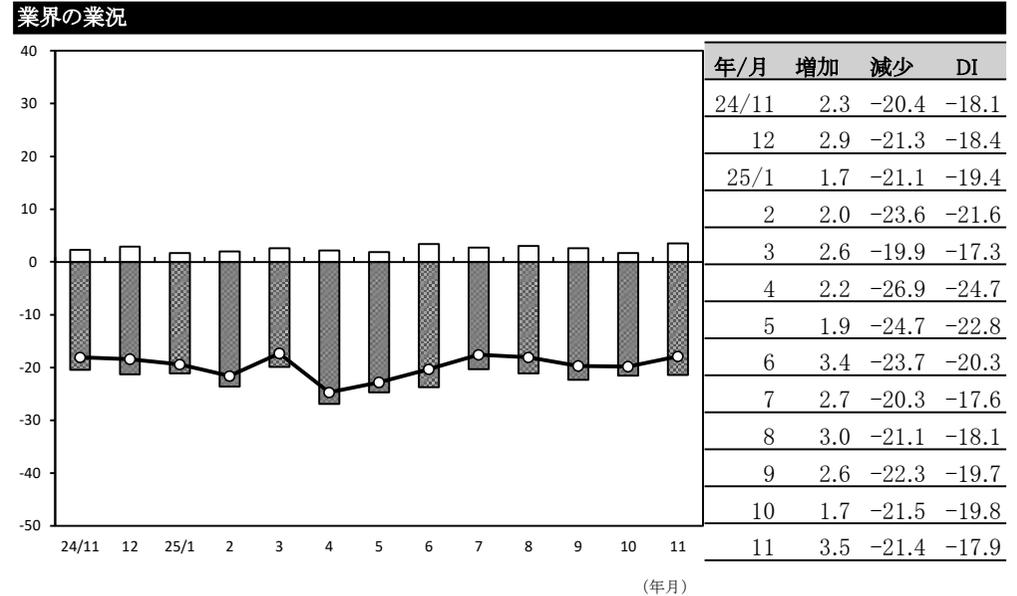
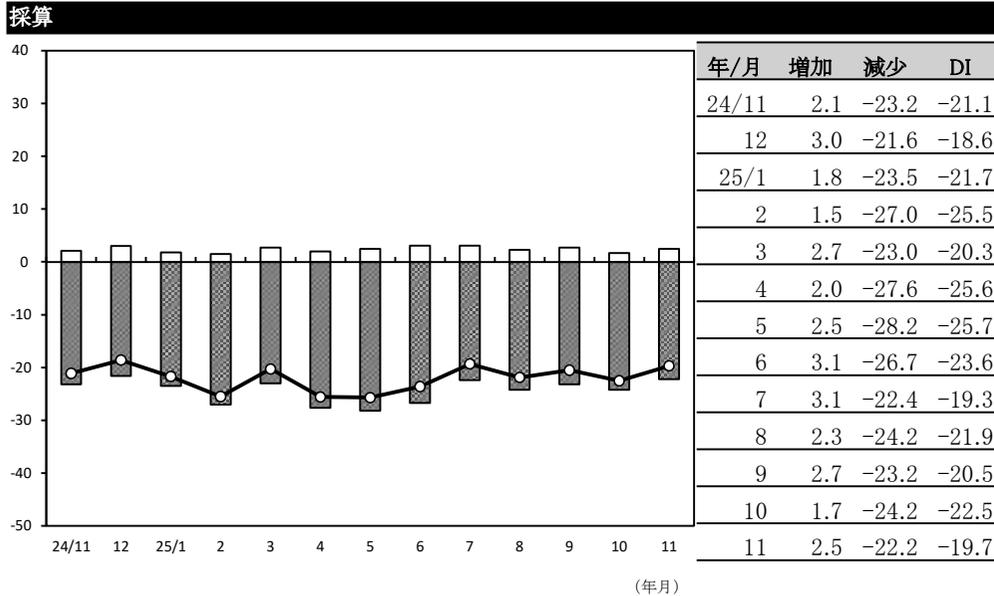
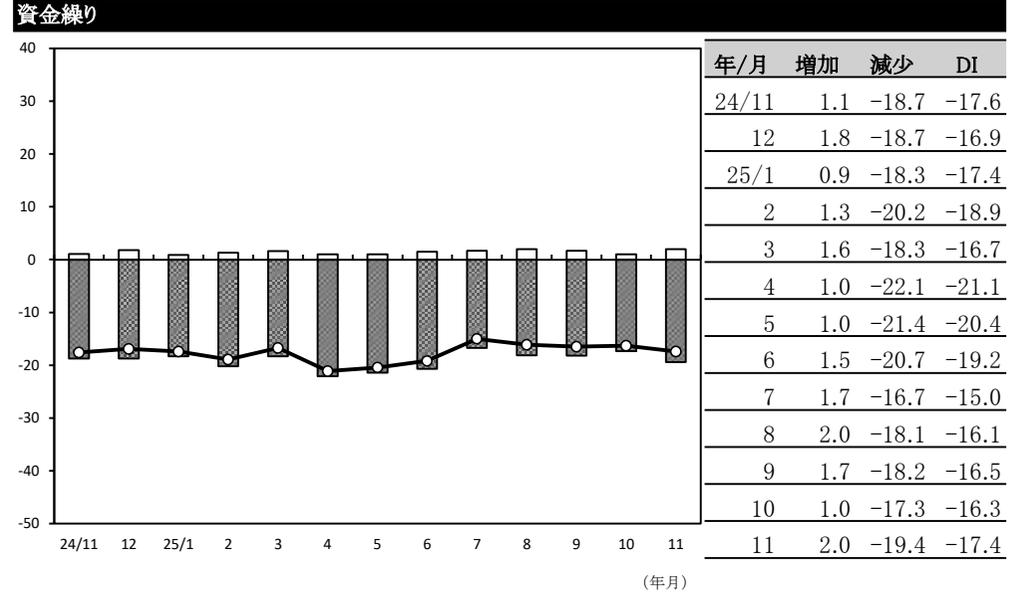
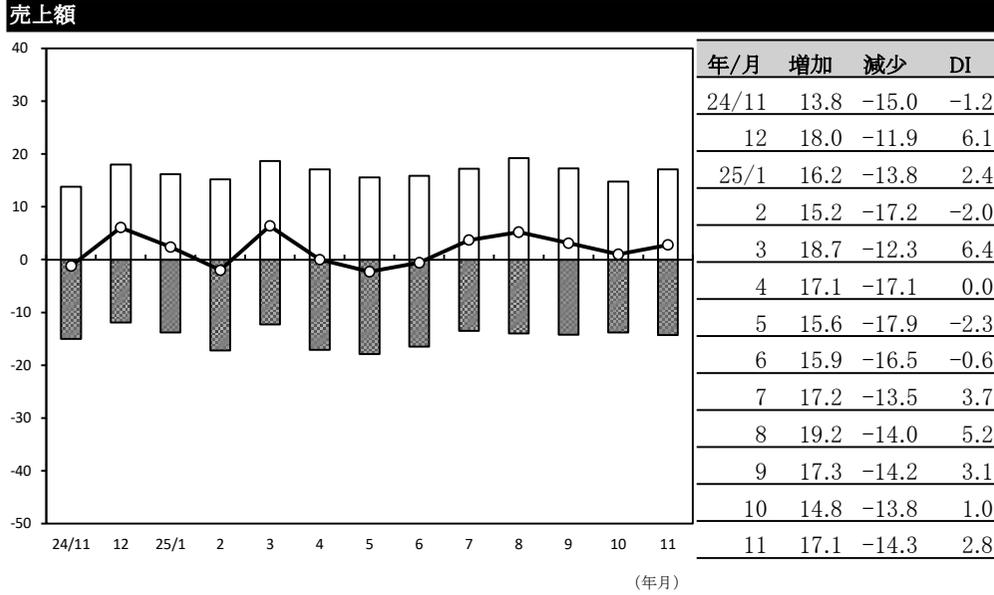
製 造 業【機械・金属】（前年同月比）



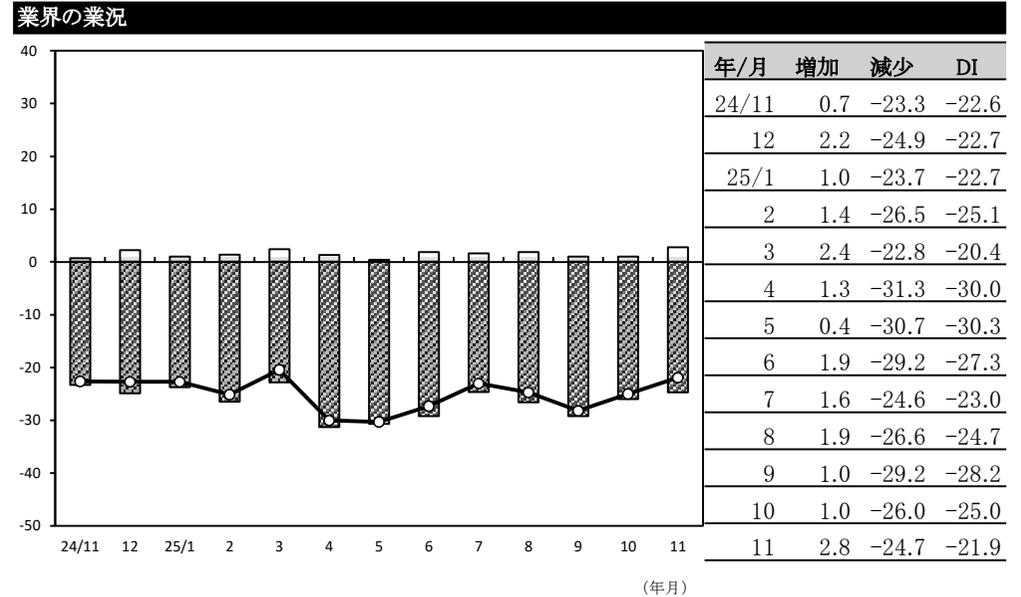
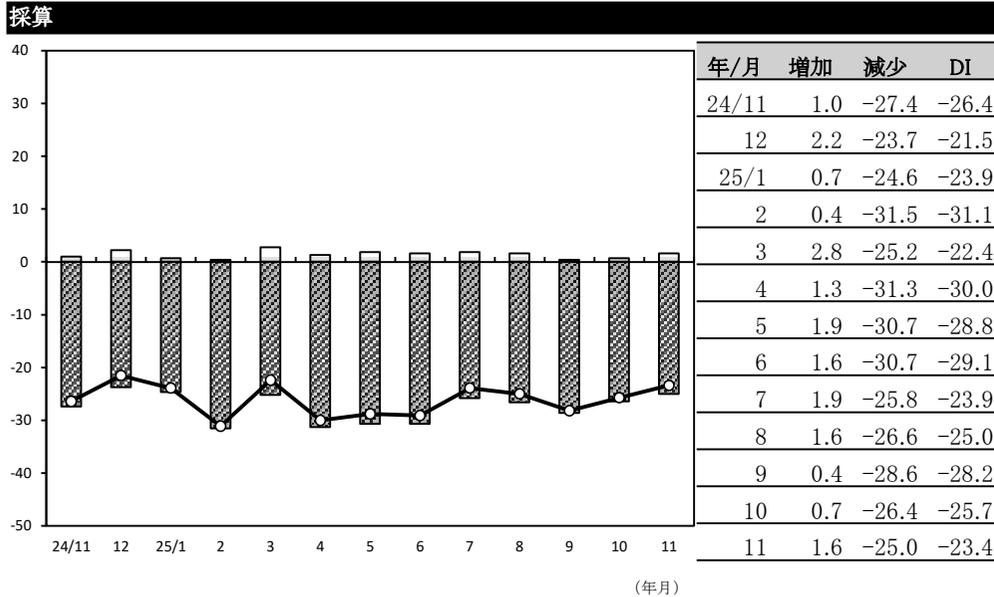
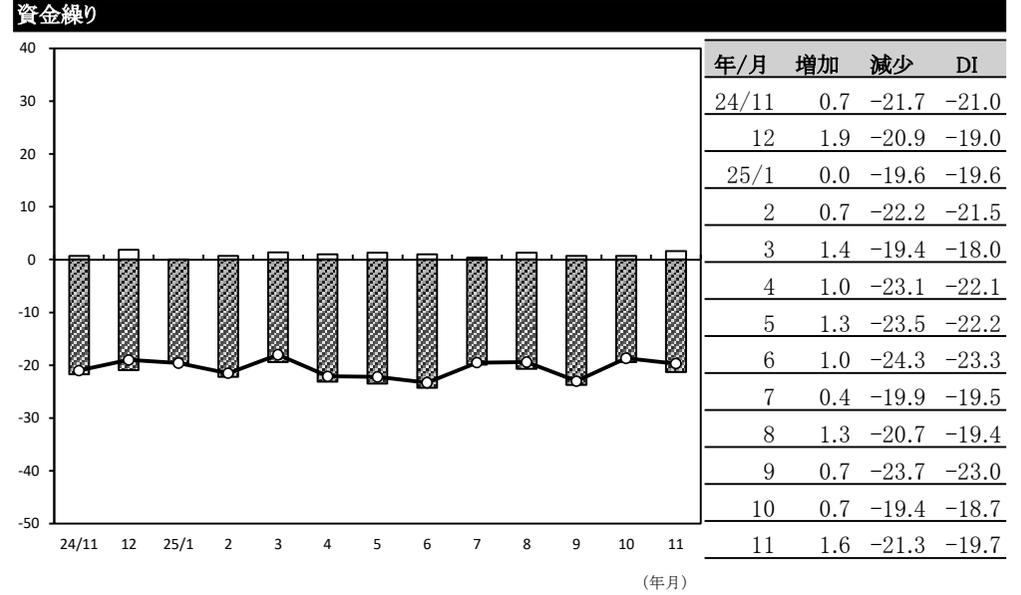
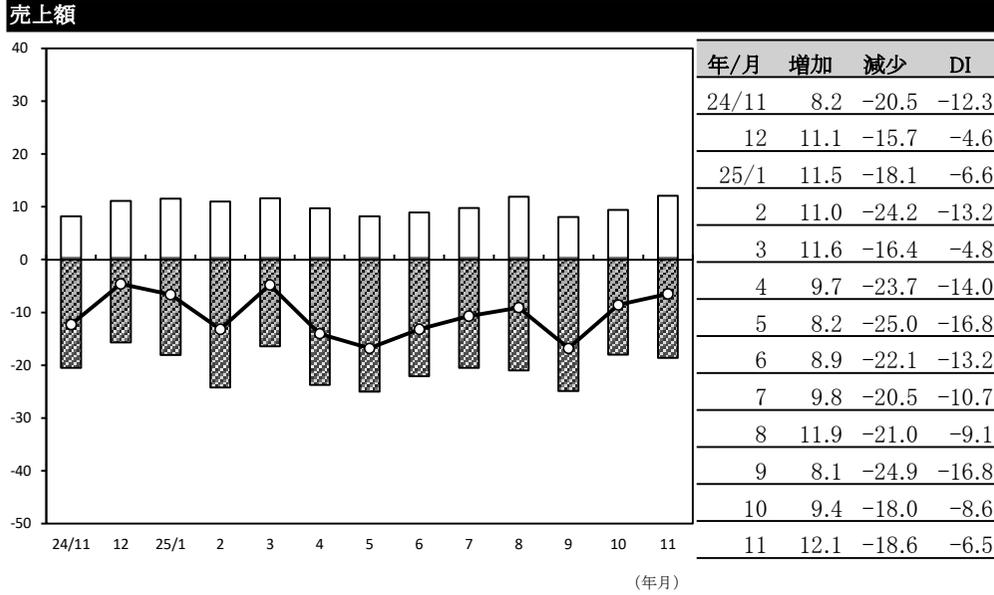
建設業(前年同月比)



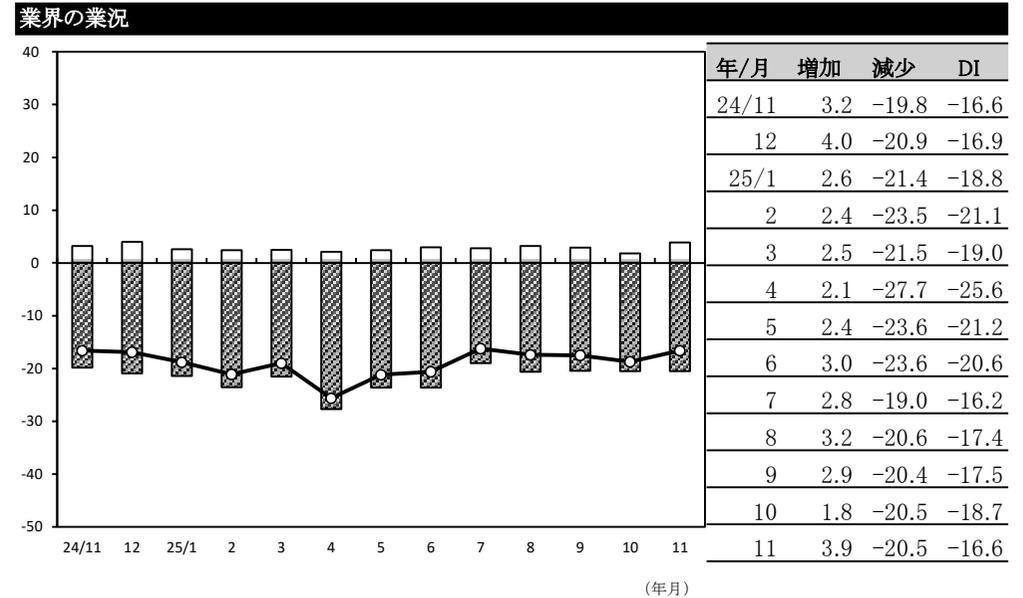
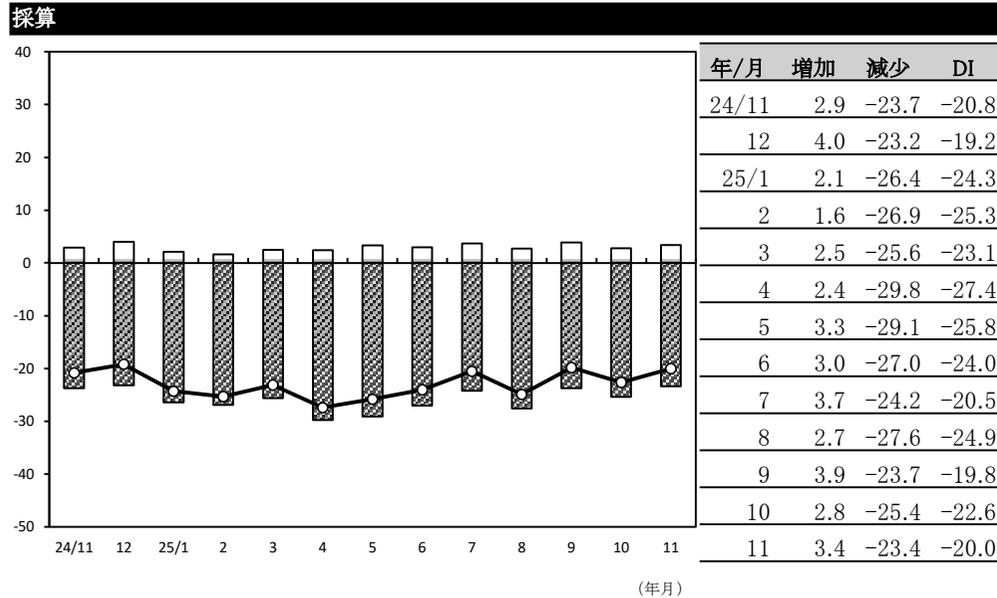
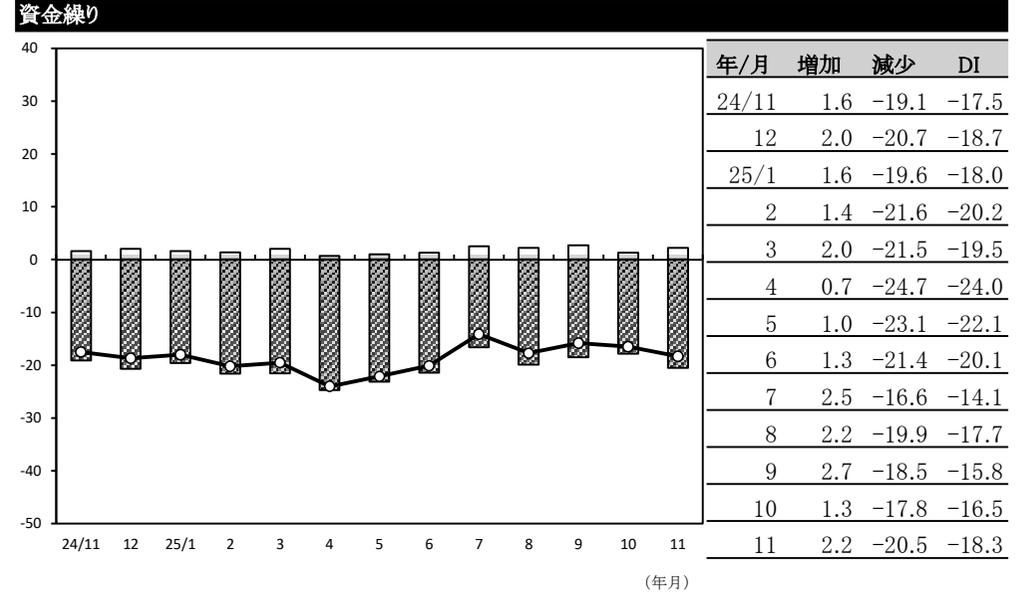
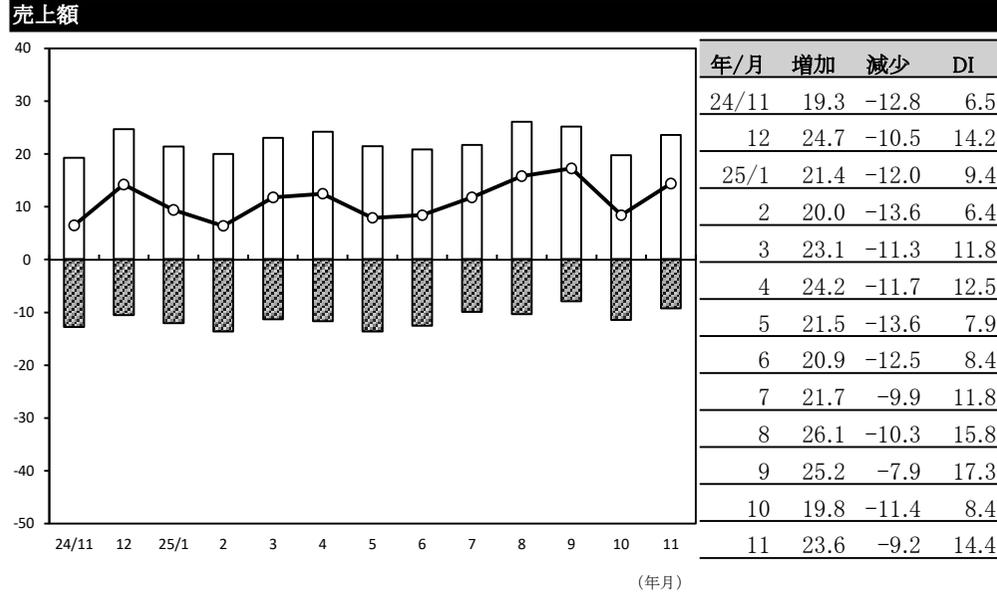
小 売 業(前年同月比)



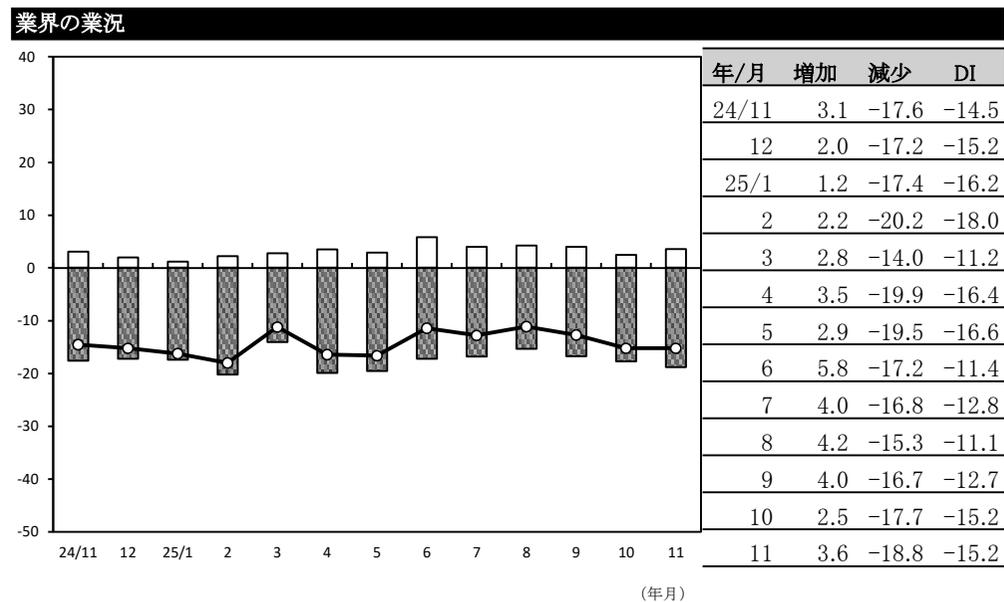
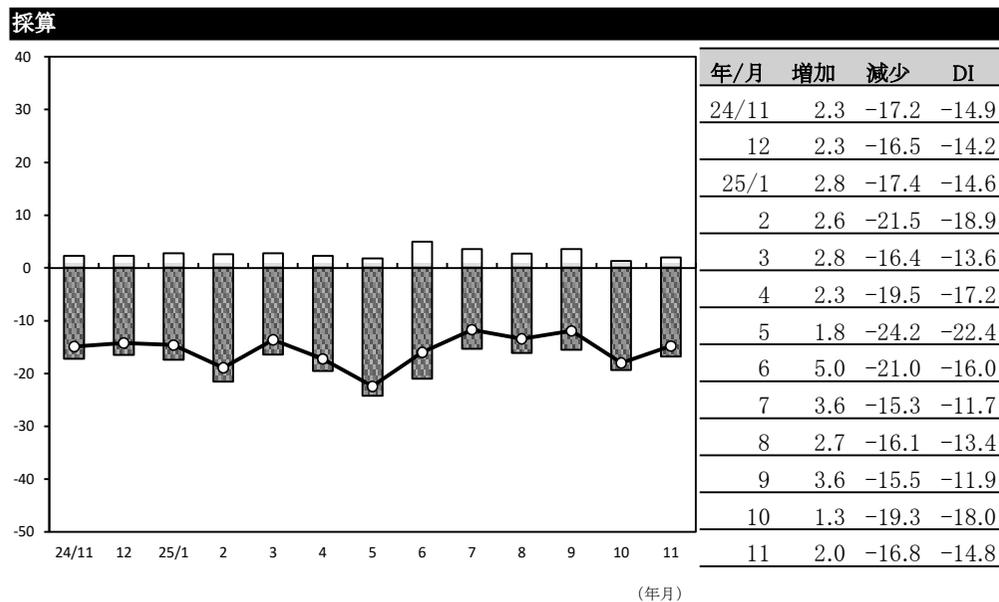
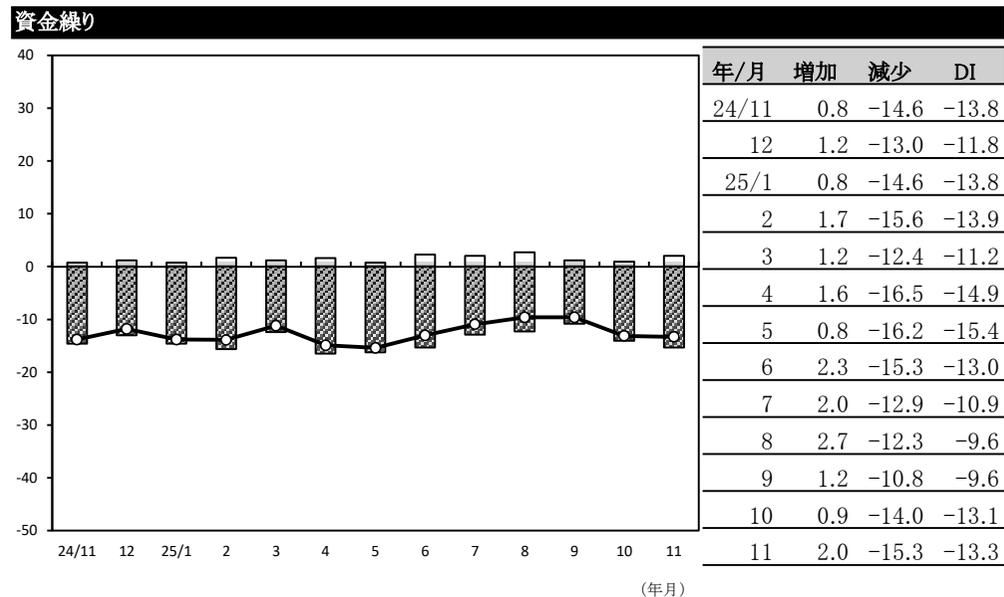
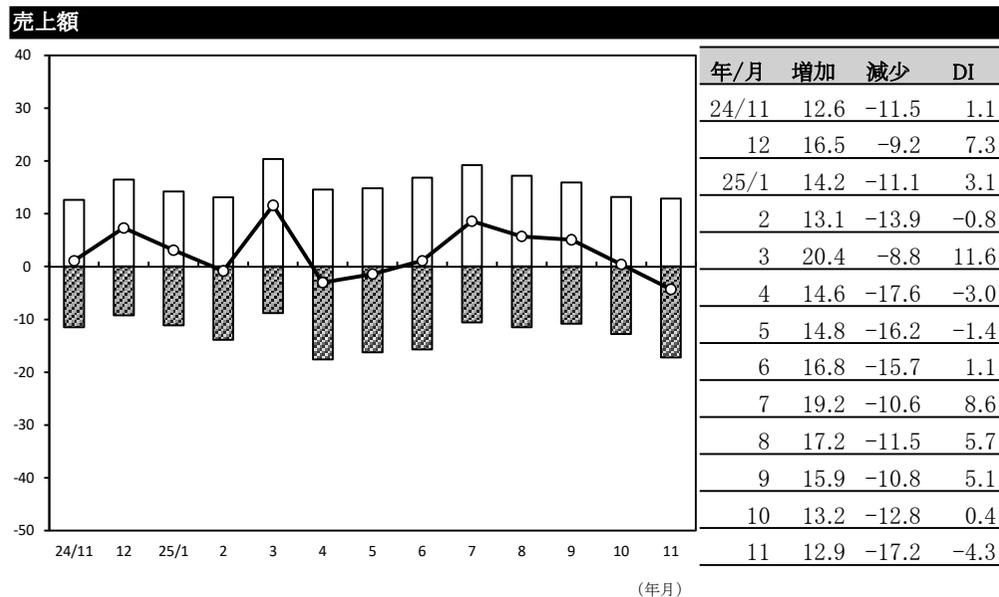
小売業【衣料品】（前年同月比）



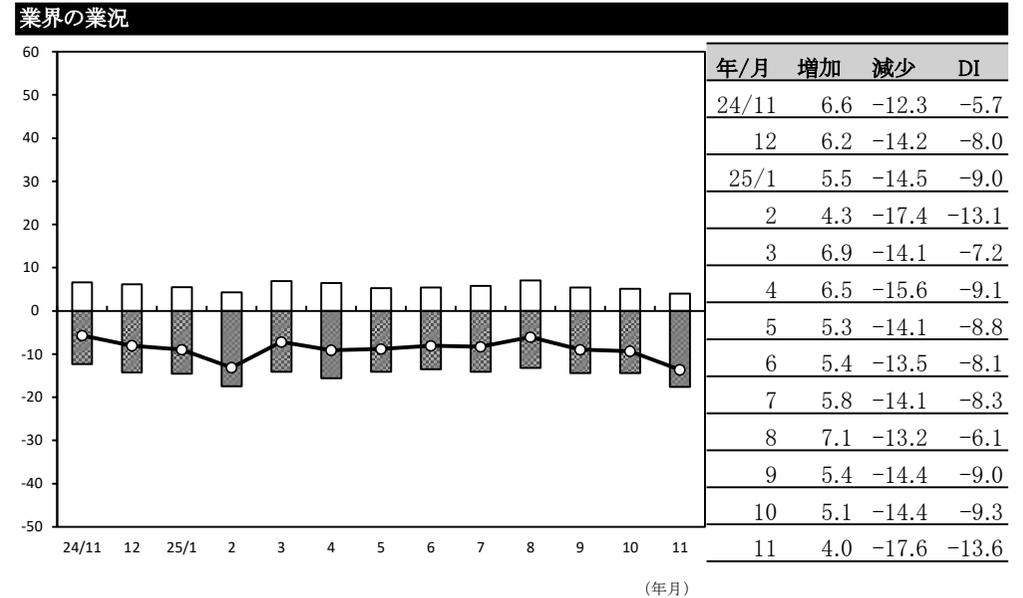
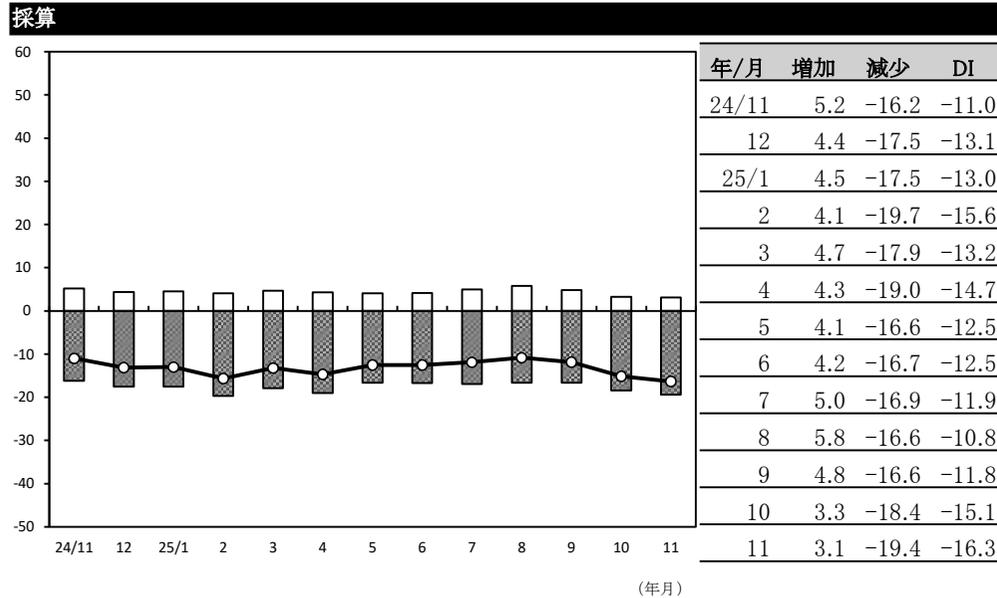
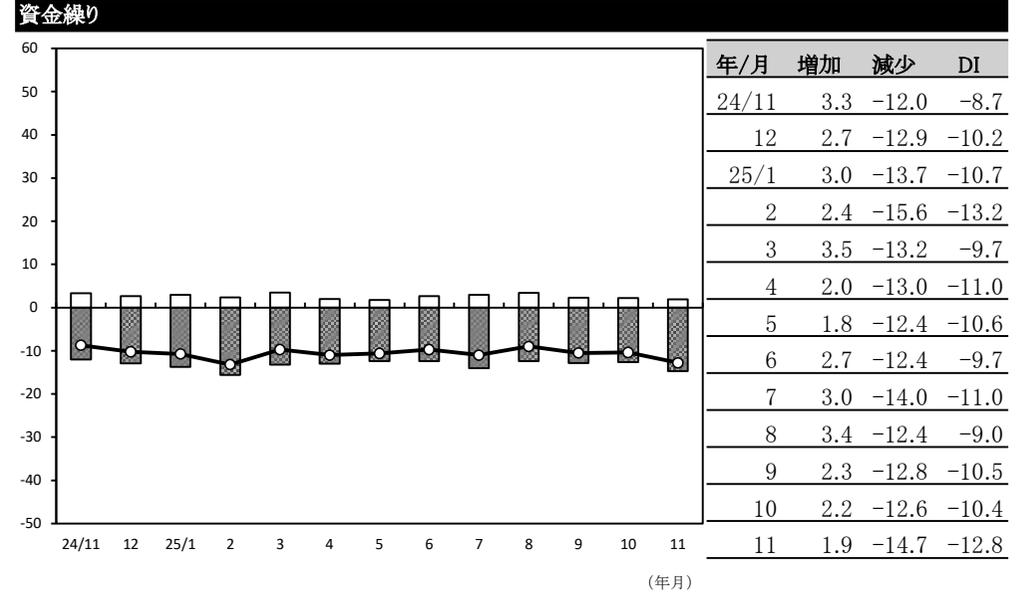
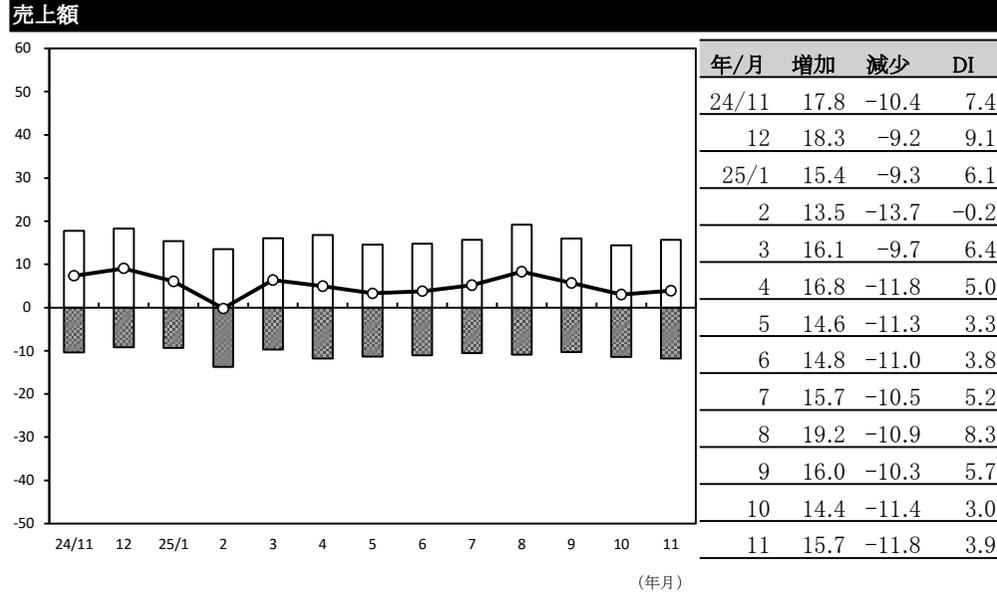
小売業【食料品】（前年同月比）



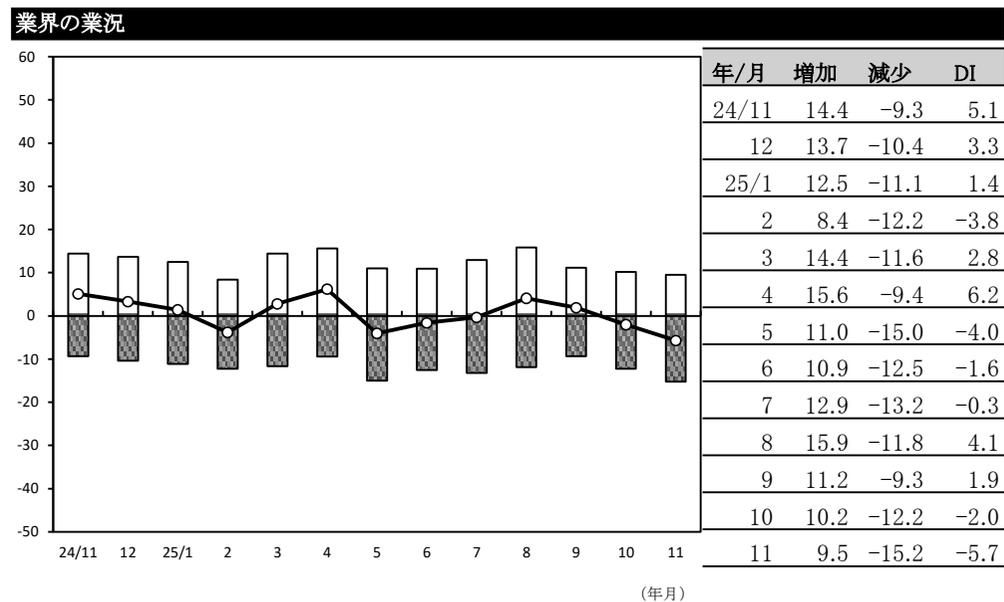
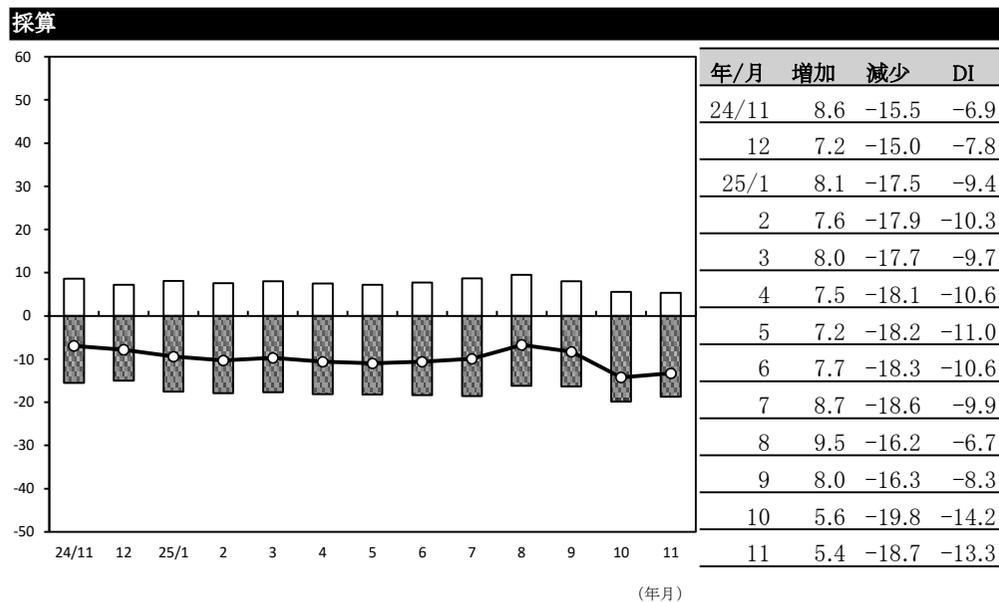
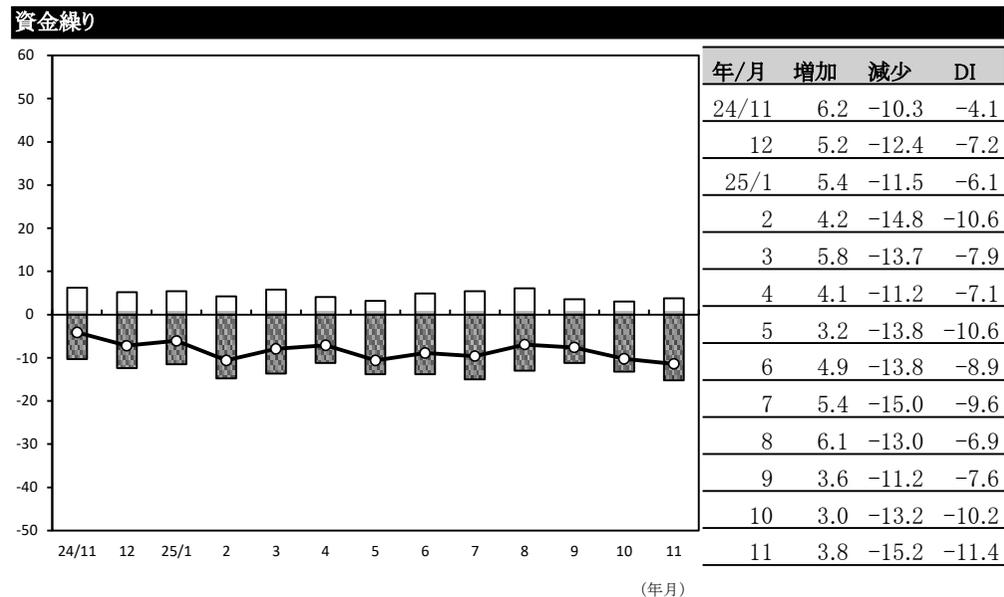
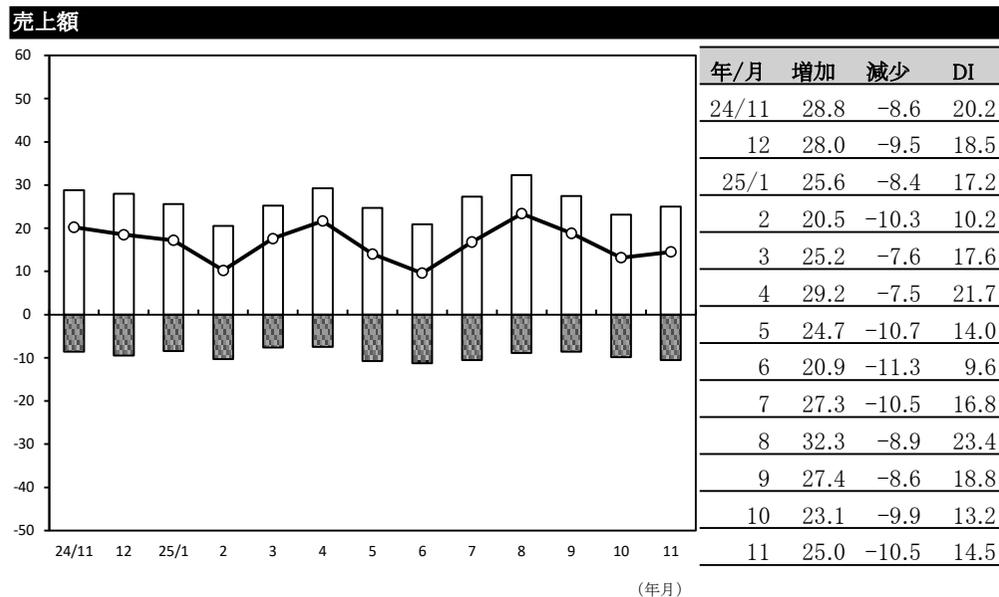
小 売 業 【耐久消費財】（前年同月比）



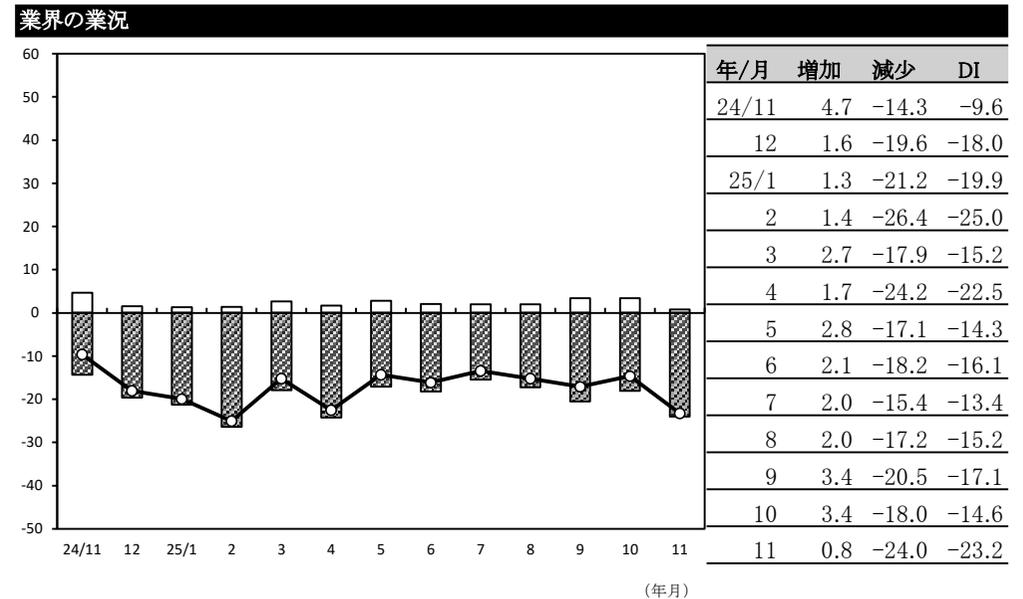
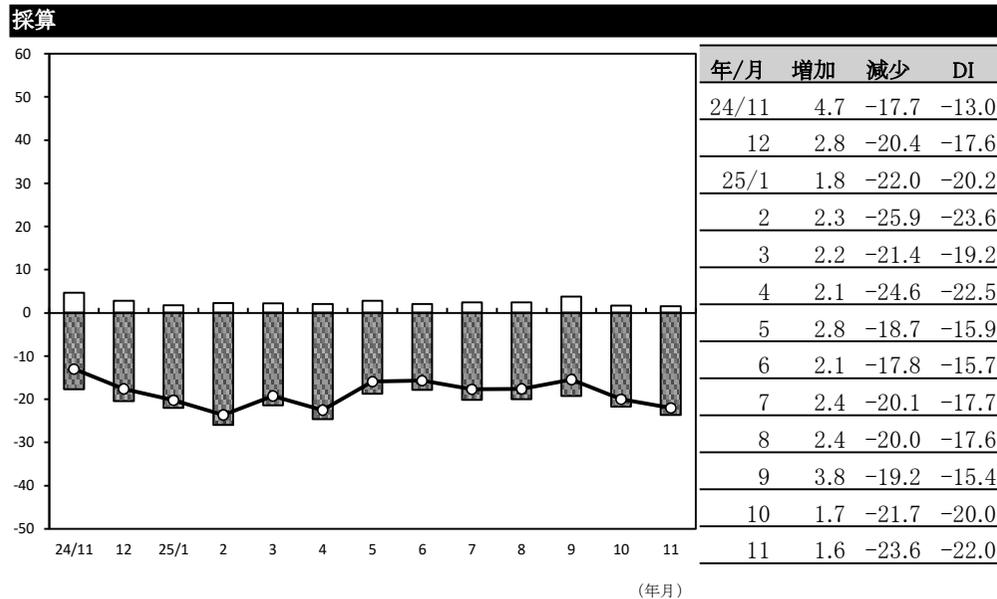
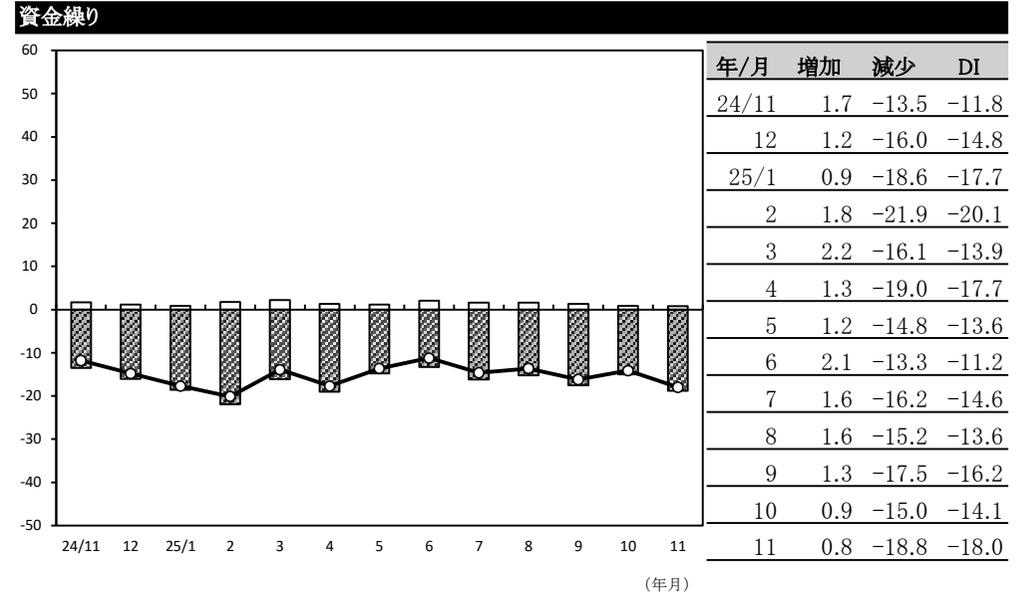
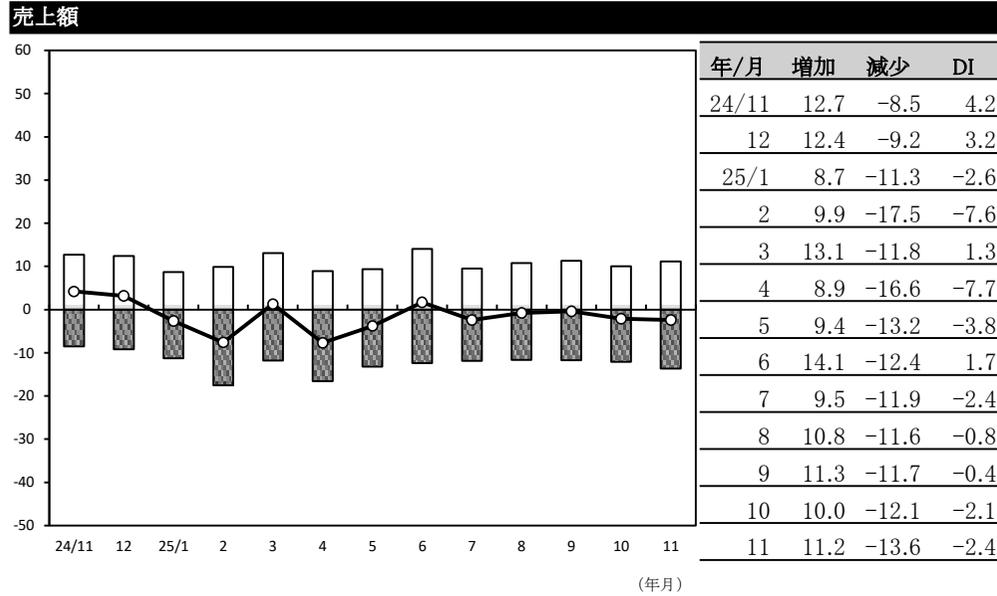
サービス業(前年同月比)



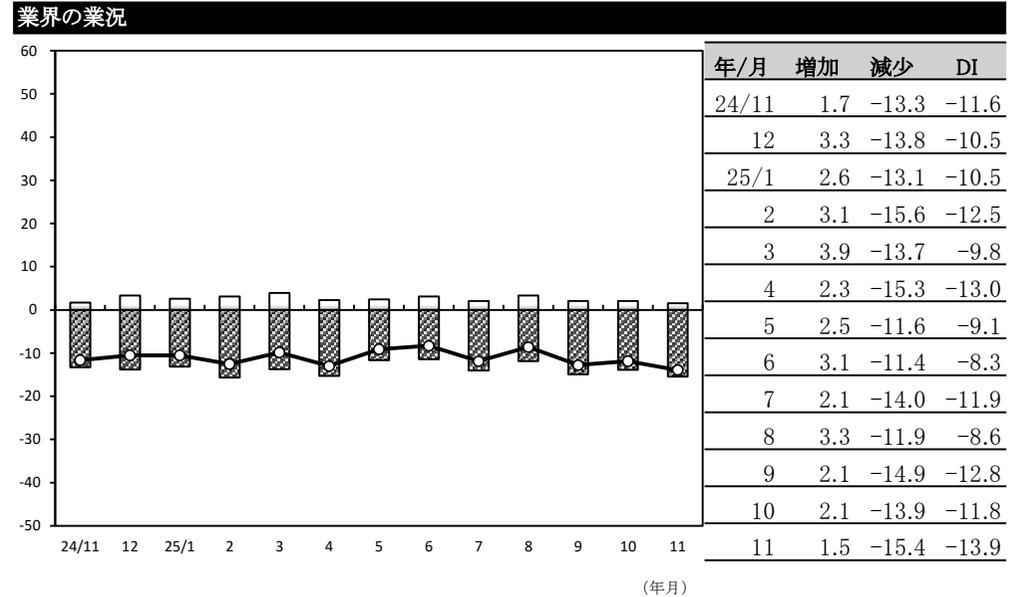
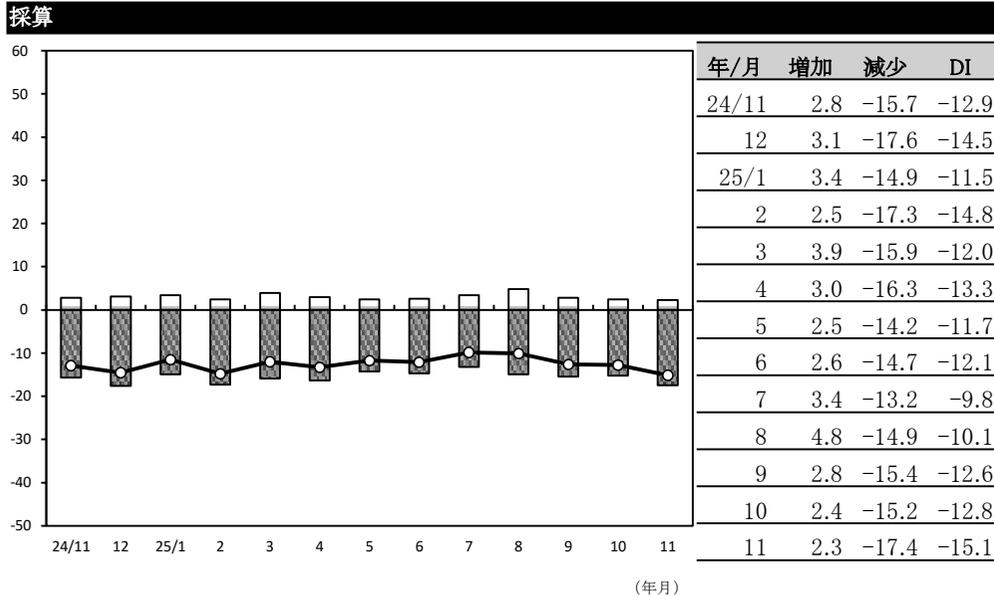
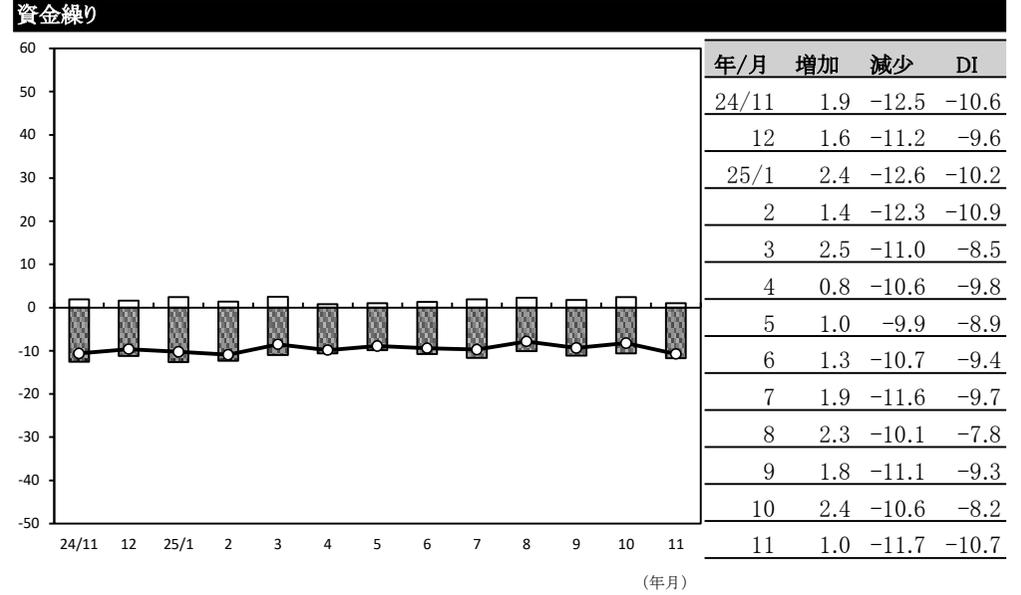
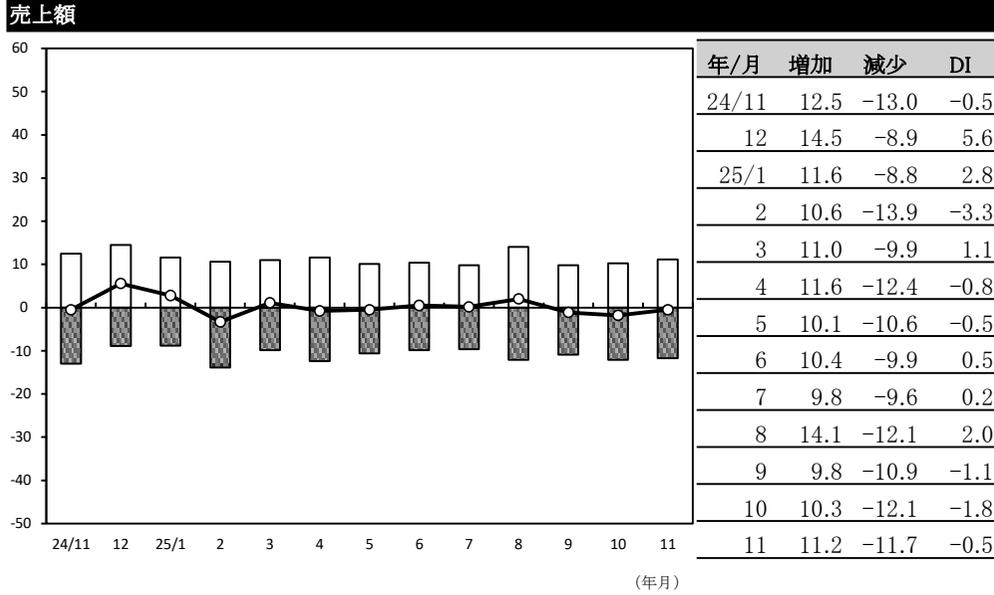
サービス業【旅館】（前年同月比）



サービス業【クリーニング】（前年同月比）



サービス業【理・美容】（前年同月比）



小規模企業景気動向調査(11月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

熊被害の為に、外出を控えるために消費減退。各店、SNSでのPR強化に取り組むことで、自社PRIに力を入れていることが需要取込に繋がっている。

(山形県南陽市商工会)

今回の調査対象とした建設業・理美容業については、景気が好転しているという印象を受けた。一方で、繊維工業については、採算性がやや悪化しているため、継続して商工会にて支援を行っていきたい。

(茨城県取手市商工会)

ガソリン暫定税率の廃止より、年末にかけて補助金が段階的に拡充され、価格が下がることが明るい材料。

(埼玉県毛呂山町商工会)

国内外で抹茶の需要が増加しているため、てん茶はもちろんのこと、煎茶が供給不足となり取引価格が上昇している。

(静岡県菊川市商工会)

業種を問わず、消費マインドの持ち直しによって業況が好転しているという声が多く見受けられた。

(広島県五日市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

物価高騰による影響はあるものの総体的には安定感が感じられた。物価高騰施策への期待感が高い。

(北海道新ひだか町商工会)

採算や資金繰りを不変と考えている事業者が多いが、売上が変わらないのに、仕入単価が上がっている以上は利益が減っているということになり、賄えない部分は自己資金で補填などを行っていることでの不変という考え方かと見ている。月次での予算化などの会計管理や価格転嫁の手法を使用していけるようにするのが支援者の役割となってくると思う。

(福島県保原町商工会)

物価上昇が依然と続き、飲食店など小売・サービス価格へ転嫁しにくい業界も多い。景気対策及び年末需要に期待している事業所が多く見受けられる。

(群馬県みどり市商工会)

業種によってもそれぞれの事業者の取り組み方で違いがあるが、特にかなり好調という事業者はないような感じである。どの業種も仕入れ単価が上がっているため、価格転嫁できて売上が上がっていても、採算ベースで横這いのところが多い。

(石川県美川商工会)

県内の景気は「緩やかに持ち直している」との判断が継続。個人消費や観光需要の底堅さ、設備投資の増加が支えとなっています。一方で、物価上昇や人件費の高騰が経済活動の重しとなっており、中小企業を中心に経営環境の厳しさが続いています。雇用・所得環境は緩やかに改善しているものの、倒産件数が前年を上回るなどリスクも見られます。先行きについては、国内外の経済情勢に左右されやすく、慎重な見通しが求められています。

(山梨県身延町商工会)

仕入れ値よりも仕入れ数量が問題となっている。昨年同月比は、仕入れ値の高騰に頭を悩ませたが、今年度は数量の問題が出ている。異常気象や自然災害により数が取れなくなっている。このままでは、仕入れ数減少による売上低下が見込まれるため、資金繰りが苦しくなることが予想される。そうならないために、業態転換や新商品開発も視野に入れていく必要があると感じている。

(三重県伊勢小俣町商工会)

11月は「丹波もみじめぐり」等の観光需要や、特産品(黒大豆・栗など)の販売がピークを迎え、サービス業や一部小売業では市外からの集客による好影響が見られた。しかし、地域経済の基盤である製造業における受注減や原材料高騰、建設業の仕事不足は深刻さを増している。季節需要で潤う観光・消費部門と、コスト増と需要減に苦しむ生産部門との間で、景況感の乖離(二極化)が顕著になっている。

(兵庫県丹波市商工会)

業種により景況感に明暗が分かれている。建設業やタイヤ販売、一部の食品製造では、温暖な気候やイベント需要、価格転嫁の浸透により堅調な動きが見られる。反面、暖冬傾向は冬物衣料の不振や農作物の不作も招いている。特に深刻なのは構造的な課題で、サービス業等では地域人口の減少・高齢化による固定客の減少が続く。さらに、最低賃金引上げや資材高騰などのコスト増に加え、慢性的な人手不足が企業の収益力と供給体制を圧迫しており、多くの小規模事業者にとって厳しい経営環境が続いている。

(鳥取県米子日吉津商工会)

原材料価格の高騰、採用難と最低賃金引き上げによる負担増により、小規模事業者にとっては業種問わず厳しい状況が継続している。経営の安定化と人材確保の両立が難しい。

(福岡県志免町商工会)

県内においては概ね安定した情勢にあり、自治体の支援も順調に施策展開されている。ただし、現在多くの事業者を悩ませているものが、2026/1/1より施行される最賃引き上げであり、全国で最も高い引き上げ額として資金繰りに懸念がある。

(熊本県熊本市託麻商工会)

秋の観光シーズンで観光客が増え、観光地から一部の観光客が商店街に流れこみ、一過性ではあるが、飲食店等がにぎわった。

(鹿児島県伊佐市商工会 菱刈支所)

売上増加とともにコストが圧迫。総じて利益が増えていない。

(沖縄県豊見城市商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

食料品製造業においては、季節物の商品の売上が伸び始めてきた。

(宮城県遠田商工会)

菓子製造業:インスタ広告等ネットでの広告に力を入れることで、顕著に売上に表れている。

(山形県南陽市商工会)

コマツの下請け関連の事業者は米国関税の「導入見通し」が、国内生産の需要を高め、下請け事業者の売上を回復させている。

(石川県能美市商工会)

機械金属製造業関連業者は、同業他社の高齢化や担い手不足が深刻化しており、M&Aや廃業が増え供給が需要に追いついていない。そのため若い従業員のいる当社は好調が続いている。

(佐賀県唐津上場商工会 経営支援センター)

ふるさと納税関連の事業者については年末に向けて売上が増加傾向にある。

(沖縄県嘉手納町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

製造関連の事業者は仕入単価向上のため、値上げをせざるを得なく顧客が離れることを危惧している。

(宮城県東松島市商工会)

これまでの原材料や光熱費の価格高騰に加え、機械設備の維持等のコストが重なり、利益が大幅に圧迫されている状況にある。特に原材料の価格高騰は、あらゆる品目に及び、物によっては倍ぐらいのコストに跳ね上がっているものもある。価格転嫁もなかなか思うように進まず、利益圧迫の傾向は今後も継続する見通しとなっている。

(福島県会津美里町商工会)

食料品製造業については消費者需要は安定しているものの、価格競争や消費者の節約志向が強まり、売上は横ばい。対して仕入れた煙火や人件費上昇から業況は悪化している。機械金属製造業は前年より売上がやや増加したものの、コストや資金繰りに大きな変化はなく、業況は安定横ばい、背景には、需要の底堅さと原材料価格の安定がプラス要因、固定費上昇や外部リスクが慎重姿勢を維持させている要因として作用すると考えられる。

(茨城県つくば市商工会)

食料品製造関連の事業者は、原材料高の影響により利益は圧迫され、効率化投資の必要性が増している。機械金属製造関連の事業者は、自動車関連は持ち直しつつあるが、中小への波及は限定的。部材高と電気代の上昇が重荷となり、利益確保が難しい。

(栃木県那珂川町商工会)

食料品製造業は、売上は増加するものの仕入れ単価も増加しており、採算は悪化している。新商品開発にて更なる売上増加を図っている状況。

(神奈川県小田原市橋商工会)

機械金属製造業の事業者は、一部で持ち直しが見込まれる一方、原材料費と人件費の上昇が採算を圧迫しやすく受注が戻っても利益が残りにくい状況になっている。

(長野県臼田町商工会)

日銀の金融緩和政策継続に端を発した円安によりコストアップインフレが加速。物価高、原材料高、燃料費高騰を招き、利益圧迫。取引先企業はいつそ価格にシビアになり価格転嫁もままならない。従業員への給料アップの原資を確保できない。

(岐阜県海津市商工会)

食品製造に関しては、特に気候の変化による野菜の仕入れが不安定である。そのため、仕入れ値高騰で悩むより、仕入れ数が減少することに悩みがある。仕入れ数が減少することで製造できる数に限りがあり、販売数量も減ってしまうことを懸念している。

(三重県伊勢小俣町商工会)

電気・情報通信機械の生産は低下した一方、生産用・汎用機械が上昇し、製造業全体としては改善傾向にあると思われます。生産現場の人材不足が引き続き、賃金アップ等の手立てを検討せざるを得ない状況にあります。

(滋賀県甲賀市商工会)

繊維工業関連事業者は、加工単価の上昇が難しく採算が悪化している。資金繰りも悪化しており老朽化した生産設備の更新の目どが立たない状況である。

(兵庫県佐用町商工会)

原材料価格、人件費が高騰する中、価格転嫁に積極的な事業者が増えている一方で、一步踏み出せない事業者との差が開いている印象。

(岡山県阿哲商工会)

原材料費の高騰は落ち着きを見せて食料品製造業では、卵や油脂の仕入れ単価高騰が続く、同業者の廃業が増加しています。繊維工業は、昨年の取引先倒産の影響から脱し、材料の供給が安定して売上が落ち着きを取り戻しました。機械・金属業は半導体関連の停滞が見られるものの、原材料価格の高騰は落ち着き、特にロボットアームシャフト関連の受注が増加しています。業種により状況は異なるものの、一部でコスト圧迫や市場の停滞がある一方、供給の安定化や特定の分野での受注増加といった明るい兆しも見られます。

(福岡県みやま市商工会)

・イベントやインスタなどの影響で新しいお客様が来店されました。お客様のお買い上げ額が低くなったような気がします(菓子製造業)。

・依然として厳しい状況が続いており、雇用調整も引き続き行っている(機械金属製造業)。

(鹿児島県日置市商工会 日吉支所)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

降雪前に住宅建設工事や、今夏大雨被害地区の公共物に関する工事などがピークである。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

新築需要が徐々にではあるが回復傾向。ウッドショック等建築資材の高上がりから個人販売伸び悩んでいるが、回復傾向にある。中古物件の購入・改築の需要もある。

(山形県南陽市商工会)

資材価格の上昇傾向は続いているものの、適切な価格転嫁が進んでおり、概ね採算は確保できている。今後の見通しとしては、冬季は積雪等の天候要因により、屋外作業の稼働時間が左右されやすく、不透明な状況である。一方で、除雪作業の委託を受けている事業者においては、降雪量の増加がそのまま売上の伸長に繋がるため、事業分野によって業績は二極化する。

(兵庫県新温泉町商工会)

・電気工業では、材料手配の業者では物価高騰の影響を受けず売り上げも伸びている。

・とび工業では、人手不足で機会ロスで売上増加につなげていない事業所もある。

(香川県高松市中央商工会)

建築業者は、4月の建築基準法改正により申請手続きの許可に時間が掛かり9月まで施工が出来ない状況だったものの、10月ごろより承認され始めたため現在多くの同業者が一斉に稼働している状況である。

(佐賀県唐津上場商工会 経営支援センター)

<悪化傾向を示すコメント>

土木建設業の事業者は公共工事が減少してきており、一般の工事が頼りとなっている。また、冬期の除雪も降雪の状況によるので最低賃金の上昇も加わり先行きが不透明である。

(岩手県前沢商工会)

建設業の鉄筋工事では、住宅着工はやや減少傾向にあるが、インフラ整備による需要がでてきている。人材不足により工事受注を断ることがあり、機械設備等の導入による効率化が喫緊の課題である。塗装工事業は、新築住宅の受注がほぼ無くなっている。建築資材が変わり塗装をする業務がなくなっている。リフォームによる塗装がメインになっている。

(群馬県しづかわ商工会)

公共、民間ともに年末年度の需要増加で人工手配が大変。建築資材の未入荷や納期遅延で繁雑。

(埼玉県北本市商工会)

一定数引き合いはあるものの、人手確保が課題となり受注が出来ない場面が増加傾向にある。受注件数についても波があることから人材を多く確保することも困難であり、解決が難しい。

(東京都福生市商工会)

建設業において、新築やリフォーム工事が減少。物価高騰から見積もり額が上昇し、消費者側が発注に消極的になっているのが原因で、受注数が取れずに売上が減少傾向である。

(新潟県朝日商工会)

建設業の事業者は、慢性的な人手不足・資材不足により“仕事はあるがこなせない”状態が続いている。復興に向けた住宅再建の遅れにも影響があり、元請・下請ともにキャパ不足の様子。

(石川県富来商工会)

民間(住宅関連)の受注が一部停滞する一方、公共工事は堅調に推移した。資材費や人件費は依然として高水準で、採算確保が課題となっている。

(山梨県昭和町商工会)

建設関連の事業者は、市の入札公告が11月も継続していることにより、年末に向けて公共系や施設改修の案件が動きやすい状況になっている。

(静岡県東伊豆町商工会)

引合いは多いものの公共工事の減少や人手不足から売上が伸び悩んでいる。資材価格の高止まりや人手不足による外注費の増加で利益が圧迫されている事業者もある。

(京都府福知山市商工会)

建設関連の事業者は、県発注の公共工事が皆無であることに加え、民間住宅の新築需要も冷え込んでおり、市内の仕事量が著しく減少している。そのため、市外・県外へ応援に出向き仕事を確保する事業者と、仕事がなく稼働が止まる事業者との二極化が進行している。資材価格の上昇も続いており、全体として閉塞感が漂う業況となっている。

(兵庫県丹波市商工会)

住宅に係る工事の件数が減少。来年には回復する見込みはあるが、コスト上昇で利益の確保が厳しく、資金繰りが悪化。元請との価格交渉は依然として難航。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

商圏が周辺地域では収益が確保できていない。県下ほぼ全域での営業が普通となってきている。

(徳島県牟岐町商工会)

建築関係の建設業については、工事量は全般的に増えている。ただし、資材の値上がりや人手不足については引き続き継続しており、注視が必要と思われる。

(長崎県対馬市商工会)

案件はあるものの人手不足に伴い、十分なサービスを提供できていないことに頭を抱えている。仕入単価も上昇したことから採算も悪化傾向にある。設備投資に踏み込もうにも先行きに不安があり踏み込めずにいる。

(熊本県御船町商工会)

金利上昇や資材高騰で工事件数が減少。及び利益も悪化。

(大分県中津市しもげ商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

冬季営業をしない店舗等は、来期のシーズンに向けて設備投資等の準備に入っている。

(長野県小谷村商工会)

道の駅での販売は今年度から販売しているため売上比較はできないが、店舗の売り上げはSNSの強化により認知度が少し売上増加している。

(岐阜県川辺町商工会)

【自動車整備販売】今年度よりリースの単価を大幅に見直し、適正化を進めたことで、粗利率が改善。従来よりも収益性の高い契約構成になり、決算状況は例年より良好となる見込み。整備部門も定期顧客の入庫は堅調で、売上は安定している。新車の値上がりや納期遅れの影響は引き続きみられる。また、原材料高の影響でタイヤ・オイル類の仕入れ価格は高止まりしており、価格転嫁のバランスが課題。リース契約単価の見直しにより収益構造が強化されたため、当面は堅調に推移する見込み。既存客からの整備需要も安定しており、全体としてはプラス要因が続く見通し。

(滋賀県甲賀市商工会)

食料品以外の商品は購買点数増加の傾向が見られる。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

<悪化傾向を示すコメント>

消費マインドは落ち込んでいるものの、必需品に関しては実感を伴った節約志向を感じるほどではないとの事。他方、購入サイクルの長短による売り上げに差は感じるとの事で、全体として支出にはシビアな傾向が継続している印象。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

食品小売業については、当月の仕入単価上昇はなかったものの高止まりの状況で価格転嫁で対応しているが経費の上昇もあり利益の確保が難しい。家電小売業では、製品全体の価格高騰が続き、ネットで購入する傾向は不変であり、ネット価格には対抗できず状況は厳しい。また修理部門ではメーカー側の部品提供に対応してもらえないことから部品仕入ができず、メーカー側での修理対応となってしまうことから手間代の利益が減少。

(茨城県常陸大宮市商工会)

ブラックフライデーや年末に向けた消費喚起の影響もあり、全体的に好況であったが、衣料品については、大手の台頭により地域の事業者は厳しい状況が続いている。

(千葉県香取市商工会)

物価高による仕入れ価格の高騰が続いており、適正な価格転嫁が厳しい状況である。また大型店舗の出店やネットショッピング市場の拡大、低価格帯の製品が大量生産され、小規模事業者に大きな影響を与えている。

(東京都東大和市商工会)

衣料品小売業は、主な客層は高齢者であり、高齢化に伴う需要の減少等により買い上げ数がやや減少しているが、単価が上がっているため、売上金額は概ね前年並み。食料品小売業は、販売単価を上げているので売上はやや増加しているが、仕入価格上昇分のすべてを販売価格に転嫁できるわけではないので、利益はやや減少している。家電小売業は、対消費者では衣料品小売業と同様の傾向。対事業者では、宿泊施設等が高齢の事業主が減少し、ネットで購入する外国人や県外の事業者が増えているため、売上が減少している。

(新潟県妙高市商工会)

仕入単価や光熱費等の高騰により資金繰りが悪化している。餃子小売業:売上は現在好調。今後は朝にも営業を行っていく予定であり、店舗の改装も視野に入れている。融資による設備資金確保が必要。下駄販売(体幹を鍛えるためのトレーニング下駄の販売、指導)町内の教育施設や産業まつりなどで体験会を行い地元でも理解が出てきており、売り上げも増加してきている。エアコン需要が夏から季節が変わっても継続している。陶器小売業:新製品の實用新案は無事に通り、新規性をより強く宣伝していく。県の承認を受けるための経営革新についても手続きを進めているが、今後はブランディング力の強化と販路開拓先の確保が最優先とされる。

(静岡県天竜商工会)

■賃金アップ以上に物価が高くなっており、買い控えを感じている。気候が不安定だったため、野菜の仕入や価格が不安定。

■ケーキ店:チョコレートの仕入れ価格は、1年前のほぼ2倍となっている。包装資材も年々高くなっている。これから繁忙期を迎えるが、果物の価格がどれくらい高くなるのか不安である。

(岡山県瀬戸内市商工会)

地域衣料品店では、高齢化も進み、廃業も発生。トレンドのスパンも短くなっており、不良在庫のリスクも大きくなっている。

(徳島県牟岐町商工会)

食料品小売業を営む事業者は、地区内で発行されている物価高騰対策商品券の影響もあり、売上は昨年と不変。一方で仕入単価は増加しており、採算の好転には時間がかかると予想される。

(佐賀県多久市商工会)

耐久消費財小売業者は、冬季前の準備期間に入り、暖房機器の買い替え、修理等の売上が増加しているが、仕入価格の上昇が続き、利益率は上がっていないと回答。

(長崎県新上五島町商工会)

小売業は衣料品小売の冬物需用と行楽需要増で一部改善が見られた方、食料品の購買抑制と耐久財の伸びが足かせとなった。年末イベントと政策期待で持ち直しが期待できる一方、物価高継続が課題。

(沖縄県金武町商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

価格転嫁が比較的進んでいる業界に感じられる

(岩手県岩手町商工会)

ガソリン価格の値下げが負担減となっている。特に物流業界。

(埼玉県毛呂山町商工会)

現状維持といった状況で、香取市はメディアに固定で扱われる宿泊施設があり活況である。洗濯業や理美容は変わらず一定の需要があり、新規での開業なども増えている。

(千葉県香取市商工会)

宿泊関連の事業者は、12月中旬以降本格的に予約が入っており昨年同様好調が予想される。

(長野県小谷村商工会)

サービス関連の事業者は、秋の観光シーズンの恩恵を受け、持ち直しの動きが見られる。特に旅館・宿泊業では、紅葉狩りを目的とした個人客や団体バスツアーの増加により、売上・業況共に改善した。理美容やクリーニング業では、客数の固定化や減少といった構造的な課題はあるものの、観光需要に伴う宿泊・飲食周辺の活況が部門全体を押し上げている。

(兵庫県丹波市商工会)

旅館宿泊業については、引き続き紅葉の見頃や旬の食材を堪能できる行楽シーズンであり、利用者は増加傾向にある。積雪時期になると予約のキャンセル等も見受けられるとのことであり、当月から来月初旬にかけてが年内ピークの書き入れ時といった印象。ご高齢者が営んでいる理容室は顧客層も同世代が多く、来店客数も自然減となっている。一方競合が多い業種であり、新たな顧客層の獲得は難しく、規模は年々縮小している印象。

(香川県さぬき市商工会 寒川支所)

<悪化傾向を示すコメント>

サービス業関連の事業者は物価高騰の影響により、仕入価格等が高値継続となるも総体的には変わらず。物価高騰施策によるエネルギーコストの低減に期待感が高まる。

(北海道新ひだか町商工会)

サービス業全体として、利用頻度低下を実感するコメントが多数。価格転嫁は一部で進むが、客単価低下よりも利用頻度の低下で調整されている印象。顧客の高齢化も一因ではないかと感じているとの事。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

旅館：全国的な旅行支援ムードの減退と長距離移動によるコスト増(燃料サーチャージや運賃の値上がり)もあり、関西(大阪)からのお客様が減少している。円安でも割安感のある韓国・台湾へと需要が流れていると思われる。

洗濯業：顧客の利用動向は不変。来年のポイント還元事業による利用客増を期待したい。カウンター窓口を任せられる人材を探しているが、経験者でなければ務まらないため、どこに募集を出せばよいか苦慮している。

理・美容：年末の散髪を見据えて来店時期を調整するお客様が多く、例年通りの売上・来客で推移した。クマ出沒増による影響は見られなかった。

(秋田県由利本荘市商工会)

理容業関連の事業者は仕入が上がっているとのこと。洗濯業関連の事業者は、衣替え需要が弱く売上は低迷。エネルギーコストの上昇が直撃し採算は悪化。設備更新も進まず先行きに不安が残る。

(栃木県那珂川町商工会)

理美容業は、相変わらず顧客の来店周期が長くなっており、売上が減少となっている状況。

(神奈川県小田原市橋商工会)

宿泊・飲食においては、いくらか価格転嫁が進んでいるが、特に日本人消費者においては、賃金引上げが伴わないと消費意欲の停滞に繋がることが懸念される。

(新潟県寺泊町商工会)

美容業者について、価格見直しを行ったため売上は増加しているが、光熱費をはじめとした各種経費の高騰もあって利益は平年並みとなっている。

(福井県福井東商工会)

宿泊業は、季節的な要因からインバウンド需要が減少する時期に差し掛かっており、今後3月頃までは売上のさらなる減少が見込まれる状況にある。

(長野県上松町商工会)

近隣に美容室が多く新規顧客を安定して呼び込むことが難しくなっている。客単価は全体として上がっているが、材料費や光熱費が上昇しているため値上げをしないと利益が確保できない。

(大阪府羽曳野市商工会)

美容室、美容サロンを経営する事業者は多くいるが、どこも経営状況は厳しい。個人消費の悪化で削られるものとして優先的になっている影響がある

(奈良県田原本町商工会)

物価高騰が続いている中で、特に食料品への支出を減らすことは困難で、他の支出として理美容費やクリーニング費用を抑えている(利用頻度を削減)消費者が多いと感じられている。

(佐賀県多久市商工会)

サービス業全般において、消費者の支出抑制の影響を受け、来客数が伸び悩んでいる。人件費上昇への対応も課題となっており、価格改定の判断が難しい中で利益確保が難しくなっている。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

理容業は、地域の人口減少により客数が減少傾向、仕入諸材料の価格上昇がつづくも、料金の値上げが難しく価格転嫁が十分行えず利益率も低下傾向クリーニング業は、売上横ばい、洗剤等値上げがつづき、価格改定も競合他社大手などがあり、これ以上行えない状況で利益を圧迫している。

(鹿児島県薩摩川内市商工会)